

別冊

令和4年度第2回船橋市社会教育委員会議

2. 連絡・報告事項

(1) 社会教育課

②令和3年度 第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画

(ふなばし一番星プラン)の報告書について

令和4年6月23日(木)

午後3時00分 開会

第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画
ふなばし一番星プラン

<令和3年度>
報告書

令和4年6月

目 次

1.	第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画	
	(ふなばし一番星プラン)の概要	・・・・・・・・・・1
	概要	
	構想図	
	2つの重点目標	
	4つの方策	
2.	報告書(令和3年度)について	・・・・・・・・・・5
	実施事業の見方	
	実施事業 令和3年度「事業評価」の内訳	
	実施事業 令和3年度「今後の方向性」の内訳	
	実施事業 令和2年度「事業評価」の内訳	
	実施事業 令和2年度「今後の方向性」の内訳	
3.	評価結果一覧	・・・・・・・・・・8
4.	実施事業一覧	
	方策1 社会の状況に対応した自分探しの学びを応援します	・・11
	方策2 地域のみんなで学校を応援します	・・・・・・・・・・20
	方策3 充実した生涯学習の環境づくりを目指します	・・・・・・・・22
	方策4 地域の教育力の向上を目指します	・・・・・・・・26
5.	施策別事業一覧	・・・・・・・・・・29

1. 第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画

(ふなばし一番星プラン)の概要

(1) 計画の趣旨

本市では、「生涯学習時代の到来」を見据え、教育委員会だけではなく、市をあげて市民の学習ニーズに応える体制づくりを目指すべく、平成12年度に「船橋市生涯学習基本構想・推進計画」(ふなばし一番星プラン：第一次計画)を策定しました。平成24年度に、第二次計画を策定し、「輝け！『船橋のみんながもっている一番星』」を市の生涯学習施策における市の目指す方向として掲げ、生涯学習に係る様々な施策を展開しています。

(2) 計画の体系

第二次計画の目的を達成するため、2つの重点目標と4つの方策を設定しています。

2つの重点目標

- I 生涯を通して自分らしく学び続けよう
- II 学びで得た成果を地域に活かしてつながろう

4つの方策

- 方策1 社会の状況に対応した自分探しの学びを応援します
- 方策2 地域のみんなで学校を応援します
- 方策3 充実した生涯学習の環境づくりを目指します
- 方策4 地域の教育力の向上を目指します

(3) 計画の期間

第二次計画の期間は、平成24年度から令和3年度までです。

※「第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画」の次期計画について、新型コロナウイルスの影響を踏まえる必要があること、計画策定に係る庁内外の会議体の開催や基礎調査等の進捗に支障が生じたこと、第3次船橋市総合計画と内容の整合性を図る必要があることから、策定時期を1年延長して令和3年度としました。「第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画」の計画期間は令和2年度までであることから、令和3年度に空白期間が生じないように、計画期間を1年延長としました。

(4) 計画の進行管理

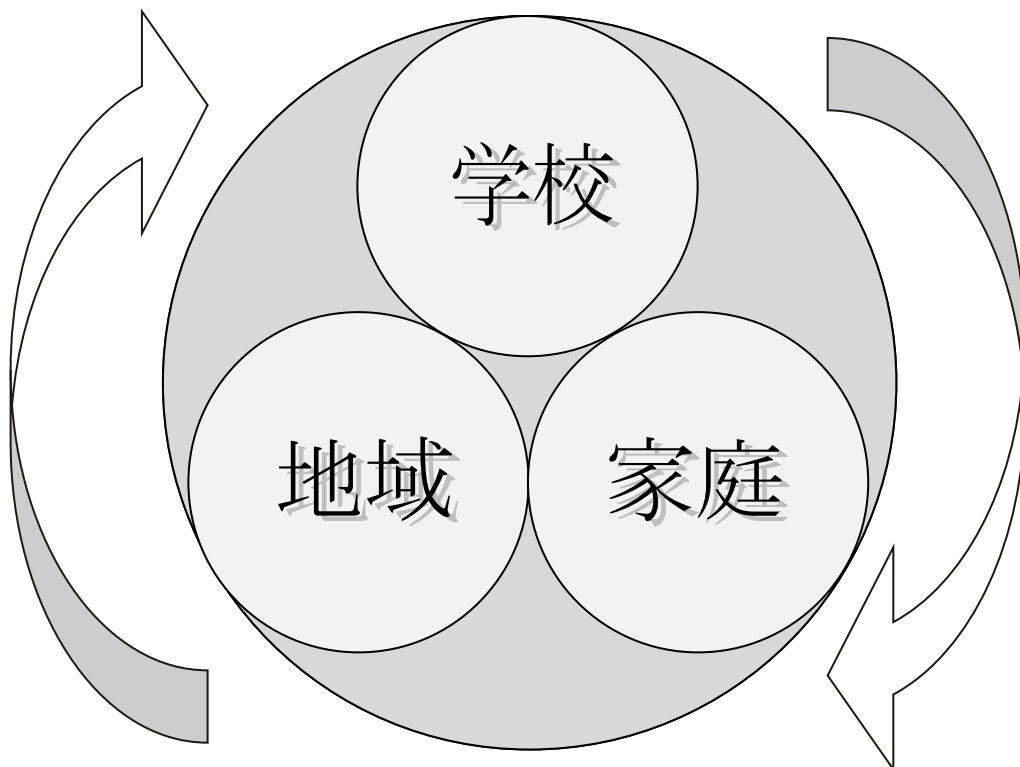
計画を着実に推進するために、計画の進捗状況を取りまとめ、社会教育委員会議により、達成度を検証することとしています。

輝け！「船橋の みんながもっている 一番星」



重点目標Ⅰ 生涯を通して自分らしく
学び続けよう

重点目標Ⅱ 学びで得た成果を地域に
生かしてつながろう



- 方策1 社会の状況に対応した自分探しの学びを応援します
- 方策2 地域みんなで学校を応援します
- 方策3 充実した生涯学習の環境づくりを目指します
- 方策4 地域の教育力の向上を目指します

輝け！「船橋の みんながもっている 一番星」



2つの重点目標

重点目標Ⅰ 生涯を通して自分らしく学び続けよう

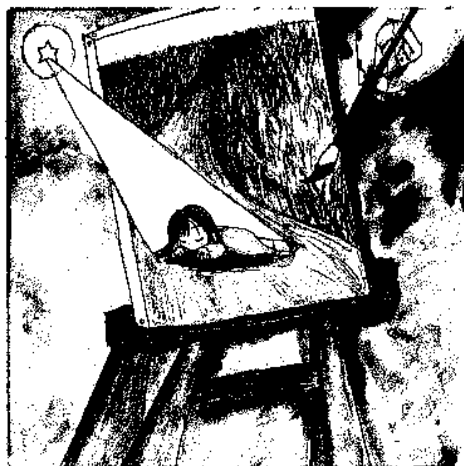
生涯を通して学ぶことで、私たちは生活のうるおいや生きがいでなく、生きる上で必要なことを、自らの意思によって身につけることができます。

多くの人との出会いや交流を深め、新たな発見、生きがいや多くの仲間を得ることができます。生涯を通して、自分らしく学び続ける喜びを大切にしましょう。

重点目標Ⅱ 学びで得た成果を地域に生かしてつながろう

今まで培ってきた個人の技術や知識はもちろん、学びで得た成果は自らの生活だけでなく、サークルや自治会、ボランティアなどの活動を通して、多くの機会に地域で生かすことが重要です。

地域社会を見つめなおし、自らの居場所づくり、仲間づくりを通して、より多くの人々とふれあい、つながり、自らの学びの成果を生かすことができる生涯学習社会を目指しましょう。



4つの方策

方策1 社会の状況に対応した自分探しの学びを応援します

急速かつ複雑に変化している現代社会において、その時々課題に柔軟に向き合い、うるおいと生きがいのある自分探しの学びができるよう、学習機会の提供・充実に努めます。

また、ライフステージ全体を対象にした多様な学習メニュー・機会を提供することで、市民の学びを応援します。

方策2 地域みんなで学校を応援します

子どもをめぐる状況は、いじめ、不登校、インターネットをめぐる問題や、保護者の過保護、子どもに対する無関心、地域と子どもの関わりが少なくなってきたことなど、多様な課題が発生し、複雑かつ深刻化しています。

このようなときこそ、心身ともに健全で心豊かな子どもの育成を図るために、学校・家庭・地域が一体となって子どもを守り育てることが重要です。

地域の人々が各々の持てる技術や能力を生かし、地域全体で学校を応援します。

方策3 充実した生涯学習の環境づくりを目指します

市では、市民の学びの機会がより身近になるよう、生涯学習にかかわる環境を整備し、施設開館日の増加や電子予約システムの導入、学校開放の促進などに努めてきました。

今後とも、多様なライフスタイルや情報化に応える質の高いサービスを提供するため、公民館、図書館、文化ホール、博物館、青少年施設や体育施設、学校等を、より充実した市の生涯学習施設とする環境づくりを目指します。

方策4 地域の教育力の向上を目指します

平成23年3月に発生した東日本大震災を通して、船橋市に住む私たちもあらためて自然の力の大きさや、家族・地域の絆の大切さを再認識することとなりました。

生涯を通して学ぶことは、自らの生きがいを見つけるだけでなく、このような自然災害に対応し、現代社会ならではの多様化した課題に向き合う姿勢にもつながるものです。

このような時代に、学校・家庭・地域、そして行政が一体となってつながり、連携することが求められています。

生涯学習を通して、人々のつながりを大切にした、地域の教育力の向上を目指します。

2. 報告書（令和3年度）について

本報告書は、第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画（ふなばし一番星プラン）で設定された4つの方策と各施策における「令和3年度の実績と自己評価」及び「今後の方向性」について、事業を実施している各担当課を対象として調査を行ったものです。

実施事業の見方

①	②	③								
			④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		⑩

①方策 No・②施策 No

ふなばし一番星プランの方策 No と施策 No を記載しています。

③事業 No・④事業名・⑤担当課名・⑥事業概要

事業と担当課名、事業概要を記載しています。また、事業名の後ろに（再掲）と付したる事業は、一つの事業が二つ以上の施策にあてはまる事業です。

⑦令和2年度実績

事業について、客観的な数値等に基づく令和2年度の実績を掲載しています。

⑧令和3年度実績

事業について、客観的な数値等に基づく令和3年度の実績を掲載しています。

⑨令和3年度事業評価

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた報告書として整理する必要があることから、従来の評価区分を見直しました。

（令和3年度の評価区分）

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、令和2年度に引き続き、評価区分を以下のとおりとします。

- A：何らかの形式*で事業を実施することができ、事業目標を達成できた。
- B：何らかの形式で事業を実施することができたが、事業目標を達成できなかった。
- C：事業を実施できなかったが、来年度以降の実施につながる検討や取組を行った。
- D：事業を実施できなかった。

※「何らかの形式」とは、事業を実施するにあたり、元年度以前と同様の従来形式で行ったもの、または、新しい生活様式を踏まえて従来形式を変更して行ったものを指す。
「事業目標を達成できた」とは、事業ごとに各課で設定した目標を、例年どおりに達成できた場合を指す。

⑩今後の方向性

事業について、次年度以降の方向性を継続・拡大・縮小・廃止・未定のうち、最も近い項目を選択しています。

【令和3年度】

実施事業 「事業評価」の内訳

上段は事業数、下段は割合（％）

	A	B	C	D	評価なし	計
方策1	35	33	6	11	2	87
	40.2%	37.9%	6.9%	12.6%	2.3%	100.0%
方策2	13	6	0	2	0	21
	61.9%	28.6%	0.0%	9.5%	0.0%	100.0%
方策3	26	13	0	1	0	40
	65.0%	32.5%	0.0%	2.5%	0.0%	100.0%
方策4	6	4	1	0	0	11
	54.5%	36.4%	9.1%	0.0%	0.0%	100.0%
計	80	56	7	14	2	159
	50.3%	35.2%	4.4%	8.8%	1.3%	100.0%

実施事業 「今後の方向性」の内訳

上段は事業数、下段は割合（％）

	継続	拡大	縮小	廃止	未定	計
方策1	79	4	2	0	2	87
	90.8%	4.6%	2.3%	0.0%	2.3%	100.0%
方策2	19	0	1	0	1	21
	90.5%	0.0%	4.8%	0.0%	4.8%	100.0%
方策3	38	1	0	1	0	40
	95.0%	2.5%	0.0%	2.5%	0.0%	100.0%
方策4	11	0	0	0	0	11
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
計	147	5	3	1	3	159
	92.5%	3.1%	1.9%	0.6%	1.9%	100.0%

方策1 社会の状況に対応した自分探しの学びを応援します
 方策2 地域のみんなで学校を応援します
 方策3 充実した生涯学習の環境づくりを目指します
 方策4 地域の教育力の向上を目指します

【令和２年度】

実施事業 「事業評価」の内訳

上段は事業数、下段は割合（％）

	A	B	C	D	評価なし	計
方策１	12	40	15	20	2	89
	13.5%	44.9%	16.9%	22.5%	2.2%	100.0%
方策２	8	11	1	3	0	23
	34.8%	47.8%	4.3%	13.0%	0.0%	100.0%
方策３	18	19	1	2	0	40
	45.0%	47.5%	2.5%	5.0%	0.0%	100.0%
方策４	2	4	3	4	0	13
	15.4%	30.8%	23.1%	30.8%	0.0%	100.0%
計	40	74	20	29	2	165
	24.2%	44.8%	12.1%	17.6%	1.2%	100.0%

実施事業 「今後の方向性」の内訳

上段は事業数、下段は割合（％）

	継続	拡大	縮小	廃止	未定	計
方策１	82	2	1	2	2	89
	92.1%	2.2%	1.1%	2.2%	2.2%	100.0%
方策２	21	0	0	2	0	23
	91.3%	0.0%	0.0%	8.7%	0.0%	100.0%
方策３	39	1	0	0	0	40
	97.5%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
方策４	11	0	0	2	0	13
	84.6%	0.0%	0.0%	15.4%	0.0%	100.0%
計	153	3	1	6	2	165
	92.7%	1.8%	0.6%	3.6%	1.2%	100.0%

（参考：令和２年度・３年度の評価区分）

A：何らかの形式※で事業を実施することができ、事業目標を達成できた。

B：何らかの形式で事業を実施することができたが、事業目標を達成できなかった。

C：事業を実施できなかったが、来年度以降の実施につながる検討や取組を行った。

D：事業を実施できなかった。

※「何らかの形式」とは、事業を実施するにあたり、元年度以前と同様の従来形式で行ったもの、または、新しい生活様式を踏まえて従来形式を変更して行ったものを指す。「事業目標を達成できた」とは、事業ごとに各課で設定した目標を、例年どおりに達成できた場合を指す。

3. 評価結果一覧

方策	施策	施策名	事業名	施策の評価				方向性						
1	1	健康を保持するための学習機会の提供					C							
		1	ふなばし健康まつり										継続	
		2	ふなばし健やかプラン講演会	A									継続	
		3	食育イベント				B						継続	
		4	ふなばし健康ダイヤル24	A									継続	
		5	健康教育事業(成人)				B						拡大	
		6	公開講座				B						継続	
		7	学校における食育の推進				B						拡大	
		8	学校保健教育の推進				B						継続	
		9	総合型地域スポーツクラブ				B						継続	
		10	ふなばしシルバーリハビリ体操推進事業				B						継続	
		2	自然との共生を育むための学習機会の提供											
			1	ふなばし環境フェア	A									継続
			2	夏休みセミのぬげから調査	A									継続
			3	ふなばし三番瀬クリーンアップ	A									継続
			4	子どもエコクラブ(公益財団法人日本環境協会事業)	A									継続
			5	森林ボランティア等による里山の樹林保全活動の促進				B						縮小
			6	自然散策会				C						継続
			7	市民参加型モニタリング調査				B						継続
		3	国際人を養成するための学習機会の提供											
			1	国際理解セミナー										D
			2	外国人ボランティア講師派遣事業										D
			3	日本語ひろば				B						継続
			4	帰国・外国人児童生徒への支援の充実	A									拡大
		4	情報化社会への対応力を高めるための学習機会の提供											
			1	初心者のためのパソコン講習会	A									継続
			2	家庭教育セミナー				B						継続
		5	家庭の教育力を高めるための学習機会の提供											
			1	健康教育事業(母子)				B						継続
			2	ブックスタート事業				B						継続
			3	母性教室				B						継続
			4	就学時健診等における子育て学習				B						継続
			5	家庭教育セミナー(再掲)				B						継続
		6	現代的課題に対応した消費者の学習機会の提供											
			1	船橋市生き生き展	A									継続
			2	消費者講座				B						継続
			3	消費者月間記念事業	A									継続
			4	消費者団体育成事業										D
		7	人材育成と仲間づくりを目指す総合的な学習機会の充実											
			1	ふなばし市民大学校運営	A									継続
		8	ライフステージに応じた学習機会の提供											
			1	子育て情報誌発行	A									継続
			2	子育て支援センターの運営	A									継続
			3	保育園での地域交流事業										D
			4	保育園での食生活改善・食育の推進										C
			5	乳幼児対象の児童ホーム事業	A									継続
			6	プラネタリウムの放映				B						継続
			7	ふなばし生涯学習フェア	A									継続
			8	家庭教育セミナー(再掲)				B						継続
			9	高齢者学級	A									継続
			10	子育てサロン	A									継続
			11	乳幼児対象の公民館事業	A									継続
			12	青少年を対象とした公民館事業	A									継続
			13	成人を対象とした公民館事業	A									継続
			14	高齢者を対象とした公民館事業	A									継続
			15	ふなばしハッピーサタデー事業	A									継続
			16	津別町青少年交流事業										D
			17	乳幼児対象の図書館事業	A									継続
			18	児童・生徒を対象とした図書館事業	A									継続
			19	青年を対象とした図書館事業	A									継続
			20	成人を対象とした図書館事業	A									継続
			21	高齢者を対象とした図書館事業	A									継続
			22	セカンドブック事業	A									拡大
			23	日本語教室				B						継続
			24	いきいき同窓会交流事業補助金				B						継続
			25	ふなばし夏のボランティア体験事業	A									継続
		9	世代間交流の推進											
			1	星を見る会、特別放映、出張星空教室				B						縮小
			2	科学の広場										D
			3	世代間交流を目的とした公民館事業	A									継続
			4	音楽フェスティバル・千人の音楽祭				B						継続
			5	少年少女交歓大会										D
			6	青少年キャンプ事業										D
			7	津別町青少年交流事業(再掲)										D

方策	施策	施策名	事業名													
1	10	スポーツ・レクリエーションの充実														
		1	船橋市民マラソン大会											継続		
		2	成人の日記念船橋市民駅伝競走大会											継続		
		3	船橋市小学生・女子駅伝競走大会											継続		
		4	総合型地域スポーツクラブ(再掲)											継続		
			5	ゲートボール場管理運営費										継続		
	11	芸術文化活動の推進														
		1	21世紀のデジタルプロジェクトの充実												継続	
		2	各種芸術文化事業の主催および、共催・後援												継続	
		3	まちかど音楽ステージ												継続	
	12	ノーマライゼーションの実現に向けての学習機会の充実														
		1	ノーマライゼーションを理解することを目的とした公民館事業												継続	
		2	日本語教室(再掲)												継続	
	13	人権意識を高めるための学習機会の充実														
1		研修会・講座開催												継続		
2		人権の花運動												継続		
3		人権意識を高めることを目的とした公民館事業												継続		
14	男女共同参画社会に向けての学習機会の提供															
	1	男女共同参画講演会												継続		
	2	情報誌fの発行												継続		
	3	講座開催												継続		
	4	男女共同参画写真・標語コンクール												継続		
	5	男女共同参画フェスティバル												継続		
	6	男女共同参画社会の実現を目的とした公民館事業												継続		
2	1	家庭や地域における学校外活動の充実														
		1	星を見る会、特別放映、出張星空教室(再掲)												縮小	
			2	科学の広場(再掲)										継続		
	2	地域との連携による家庭教育の充実														
		1	家庭教育セミナー(再掲)												継続	
			2	就学時健診等における子育て学習(再掲)										継続		
	3	学校を地域全体で支援していく体制の推進														
		1	学習サポーター派遣事業												継続	
		2	スクールガード制度												継続	
		3	学校支援地域本部事業												継続	
	4	地域や異年齢集団とかかわる機会の充実														
		1	子育てサロン事業補助事業・ミニデイサービス補助事業												継続	
		2	ふなばしハッピーサタデー事業(再掲)												継続	
		5	地域における学校施設のあり方													
			1	総合防災訓練												継続
			2	小・中学校等備蓄整備事業												継続
			3	中学生向け防災学習												未定
			4	放課後ルーム事業											継続	
			5	AEDの維持管理											継続	
		6	学校施設開放事業											継続		
6	学校をめぐる現代的課題に向けての取り組み															
	1	スクールロイヤー活用事業(スクールロイヤーによる予防教育)												継続		
7	大学や高等学校との連携協力															
	1	大学公開講座												継続		
	2	後援・共催・協賛事業												継続		
3	1	学習情報の一元化と情報のネットワーク化														
		1	「楽しく学ぼうふなばし」の発行												継続	
		2	生涯学習施設予約管理システムの運用												継続	
		3	図書館システム運営事業												継続	
	2	多様な情報メディアの活用														
		1	市広報への記事の掲載												継続	
		2	市広報、館報、チラシ及びホームページ等による情報提供												継続	
		3	貴重資料のデジタル化及び公開事業												継続	
	3	ライフステージに応じた情報提供														
		1	ホームページ運用												継続	
		2	子育て情報誌発行(再掲)												継続	
	4	学習相談体制の整備・充実														
1		学習相談体制の整備・充実												継続		
2		学習相談体制の整備・充実												継続		
5		公民館の整備・充実														
		1	公民館建替事業												廃止	
6		図書館サービス網の整備・充実														
1	公民館図書室のオンライン化(再掲)													継続		

方策	施策	施策名	事業名												
3	7	生涯学習関連施設間等の連携・充実													
		1	男女共同参画センターの充実	A											
		2	保健センターの管理運営		B										
		3	老人憩の家管理運営		B										
		4	老人福祉センター		B										
		5	児童ホーム事業	A											
		6	クリーン船橋530の日、船橋をきれいにする日の開催		B										
		7	リサちゃんだよりの発行	A											
		8	西浦資源リサイクル施設		B										
		9	南部清掃工場見学		B										
		10	北部清掃工場見学	A											
		11	公園緑地整備事業	A											
		12	下水道の日		B										
		13	初心者のためのパソコン講習会(再掲)	A											
		14	基幹館制度の充実	A											
		15	文化財保護事業		B										
		16	文化財及び埋蔵文化財の調査	A											
		17	市民文化ホール・市民文化創造館事業	A											
		18	郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館事業	A											
		19	青少年キャンプ場管理運営		B										
		20	青少年会館運営		B										
		21	一宮少年自然の家管理運営		B										
		22	まちかどスポーツ広場の設置		B										
		23	海老ヶ作貝塚再整理・研究事業	A											
		24	埋蔵文化財普及啓発事業		B										
25	重点保護遺跡選定事業	A													
4	1	地域の生涯学習の推進													
		1	子育てサロン事業補助事業・ミニデイサービス補助事業(再掲)		B										
		2	生涯学習コーディネーターとの連携		B										
		3	学校支援地域本部事業(再掲)	A											
	4	市民の力活用事業		B											
	2	ふるさと船橋について学ぶ機会の充実													
		1	船橋三番瀬漁業のPR			C									
		2	地産地消及び食育の推進	A											
	3	ふなばし市民大学校「ふなばしマイスター学科」	A												
	3	まちづくりに向けた学習機会の充実													
		1	市民活動サポートセンター事業	A											
	4	人材の養成・活用とネットワーク化													
		1	ふなばし市民大学校「生涯学習コーディネーター養成学科」	A											
5	生涯学習人材バンクの充実														
	1	生涯学習サポート事業		B											
6	生涯学習を支援するための市職員派遣制度の充実														
	1	まちづくり出前講座	A												
				計	80	56	7	14	2	147	5	3	1	3	

4. 実施事業一覧

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
1	1	1	ふなばし健康まつり	健康政策課	市の健康増進計画である「ふなばし健やかプラン21」は、健康づくりを個人の問題としてとらえるのではなく、地域における支えあいや、助け合って取り組む環境作りが大切であるとの趣旨で構築されている。このプランの趣旨に賛同した市民等が実行委員会を組織し、毎年、「ふなばし健康まつり」を開催している。まつりでは、健康づくりのきっかけを提供することを目的として趣向をこらした様々なコーナーが催されている。平成17年度から開催。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催中止とした。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催中止とした。	C	令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催中止となったが、次年度以降の開催に向けて、開催場所を協議するなど、市民運動推進会議と「ふなばし健康まつり」の方向性について検討を進めたため評価をCとした。	継続	「ふなばし健やかプラン21」の推進のため、幅広い世代が参加できる健康づくりのイベントとして継続していく。令和3年度の検討内容を引継ぎ、令和4年度の開催に向け、開催方法等の検討を進めていく。
1	1	2	ふなばし健やかプラン21講演会	健康政策課	「ふなばし健やかプラン21」推進の一環として、食・禁煙など、健康づくりに関する講演会を市民が主体となる市民運動推進会議と市が開催している。平成17年度から開催。	健康フォーラム 「みんなで目指そう健康寿命の延伸～withコロナ時代の健康づくりのポイント～」 ・開催方法：船橋市広報課公式YouTubeチャンネルで動画を公開 ・公開期間：令和3年3月15日～ ・内容 講演1：「船橋市の健康づくり～ふなばし健やかプラン21（第2次）後期分野別計画とは～」 講師：ふなばし健やかプラン21推進評価委員会会長 亀田 義人 氏 講演2：「新型コロナウイルス感染症と生活習慣病」 講師：千葉大学客員教授（元厚生労働省健康局長） 矢島 鉄也 氏 ・再生回数：合計444回（3/15～3/31）	健康フォーラム 「地域がいきいき みんなで延ばそう健康寿命～心身の状態に応じた体操の効果～」 会場：宮本公民館 講堂 実施日：令和4年3月5日 参加者数：63人 内容： 第1部講演「認知症の予防講座～認知症の理解～」 講師：明治安田生命 第2部講演「運動機能、認知機能の低下を防ぐ運動習慣づくりについて考える」 講師：NHKテレビ・ラジオ体操指導者 多胡 肇 氏	A	ふなばし健やかプラン21（第2次）後期分野別計画の小目標「身体活動・運動」と健康寿命の延伸に密接に関わる「認知症予防」に関する講演を行った。参加者アンケートでは「認知症予防に対して啓発された」「これからも運動を続けたい」等の意見があった。啓発を行うことができたため評価をAとした。	継続	「ふなばし健やかプラン21」推進の一環として、広く市民を対象とした講演会を継続していく。
1	1	3	食育イベント	地域保健課	第4次食育推進基本計画・第4次千葉県食育推進計画を踏まえた船橋市の食育推進計画の推進の一環として、関係課や食に関する団体と連携を図りながら食育活動を紹介します。市民が食育に関心を持ち、日頃の健康づくりや食生活改善に役立てる機会とする。	船橋市食育展 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	船橋市食育展 日程と会場： イオンモール船橋 令和3年6月16日（水）～22日（火） 保健福祉センター 令和3年6月24日（木）～30日（水） テーマ：「船橋産の旬の食材を知ろう！おいしく食べよう！」 内容：展示（船橋産の食材や旬の食材の紹介、野菜たっぷりメニューを提供する飲食店や直売所の紹介、学校や保育園での食育、食品ロス対策、健康づくりのための食生活など） 協力団体数：9課、8団体	B	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、令和2年度は中止した食育展を、従来の保健福祉センターに加えイオンモール船橋をメイン会場として開催した。コロナ禍のため、展示により市内の食育の取り組みを紹介した。展示のみで来場者数や反応が不明であることから評価Bとした。	継続	令和4年度は令和3年度と同様にイオンモール船橋をメイン会場とし、保健福祉センターとの2か所で開催及びイベント開催を予定している。今後も庁内食育関係各課及び市内食育関係団体と連携を図りながら市民の食育推進のための有効な場として内容の充実を図っていきたい。
1	1	4	ふなばし健康ダイヤル24	健康政策課	市民の生命を守るとともに、健康保持・増進のため、各種電話相談に対して、看護師等の専門家が24時間年中無休体制で対応する。 ①健康相談・・・日常生活で感じる「身体の不調」や、「健康の保持・増進」に関すること。 ②医療相談・・・病気に関する説明や、治療・検査などに関すること。 ③介護相談・・・介護者や被介護者が抱く不安等に関すること。 ④育児相談・・・乳幼児を育児中の両親や、これから母親になる女性からの子育てに関すること。 ⑤メンタルヘルス相談・・・市民が抱えるストレスや心の悩みなどの対処法等に関すること。 ⑥医療機関案内（夜間休日急病診療所や休日当番医の案内を含む）・・・最寄りの医療機関や夜間・休日に受診可能な医療機関の案内に関すること。	相談件数：78,074件	相談件数：59,270件	A	前年度に引き続き、広報や小児救急ガイドブック等への掲載、転入者への事業周知チラシの配布により、周知を行った。令和3年度は59,270件の相談を受けた。相談件数は、年々減少しているが、市民が急な病気やけがで不安になった時などに電話で相談できるサービスとして効果があったものとして評価はAとする。	継続	広報や小児救急ガイドブック等への掲載などで事業の周知を引き続き行っていく。
1	1	5	健康教育事業(成人)	地域保健課	健康の保持増進や、生活習慣病予防・改善を図るため、国の方針をもとに、健康教育に関する事業を地域住民と協働するなどして実施している。昭和54年から開始。	糖尿病教室 中止 健康講座 中止 運動教室 16回 257人 地区健康教育 12回 160人 生活習慣病予防ミニ講座 中止	糖尿病教室 1講座3回コース 年3講座計画 健康講座 2講座実施 延べ6回 延べ74人 3講座1回コース 2講座2回コース 5講座計画 3講座実施 延べ4回 延べ52人 運動教室 1講座4回コース 12講座計画 10講座実施 1講座2回コース 24講座計画 20講座実施 延べ1044人 地区健康教育 計画 59回 実施 58回 延べ788人 生活習慣病予防ミニ講座 中止	B	令和2年度より新型コロナウイルス感染症の影響で教育事業の中止・縮小を図っている。令和3年度は緊急事態宣言が出された8月～9月については感染症予防対策を講じ、健康教育事業を中止したが、それ以外の月は、感染症予防の対策のため参加人数を減らし、実施。地区教育に関しては、関係機関が感染予防のために事業の縮小・中止であったことから計画ができなかった。このため、令和2年度と同様Bと評価する。	拡大	令和2年度より新型コロナウイルス感染症の影響で教育事業の中止・縮小を図っている。令和4年度は集団事業を実施しつつ、地区教育の回数を増やしていく予定。また、20～50歳代を対象とした新講座を平日と土曜日に開催を計画している。
1	1	6	公開講座	地域保健課	・健康づくりに関するテーマで講演会を実施 ・対象：船橋市在住、在勤の方 平成18年度より年1回開催。	講演会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	第15回健康づくり公開講座 日時：令和3年9月18日（土）14時00分～15時30分 開催方法：オンライン（Webex Meetings） テーマ：“長寿菌”がいのちを守る！～健康長寿100歳を目指して～ 講師：辨野 義己氏（一般財団法人辨野腸内フローラ研究所 理事長、理化学研究所名誉研究員） 参加者数：42名	B	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、令和2年度は中止した公開講座をオンラインで開催した。新たな日常やデジタル化に対応した取り組みとすることができたが、集合型で実施していた時に比べて参加者数が少なかったため評価Bとした。	継続	令和4年度は令和3年度と同様にオンラインでの開催を予定している。今後も新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況や新たな日常に対応し、市民の学びの場として有効な方法（オンラインまたは集合型）やテーマを選定していきたい。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
1	1	7	学校における食育の推進	保健体育課	<ul style="list-style-type: none"> 成長期にある児童生徒が、生涯にわたって健やかに生きる基礎を培うため(1)食に関する指導の充実、(2)学校給食の充実、(3)食育を通じた健康状態の改善等の推進を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理の充実、異物混入防止に関しては、研修の他、各校の調理場にて現場指導を行った。また、直営校においてはお茶の水女子大学生活科学部藤崎香帆里氏の「衛生管理に関する意識調査」を実施した。 「船橋市学校給食アレルギー対応マニュアル」の改訂に向けて、検討会を開催した。 食塩相当量については、文部科学省基準を顕著に上回る学校へ保健所と連携し、指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内5校において「食に関する指導研修会」を実施し栄養教諭・学校栄養職員の指導力の向上を図った。 学校給食の内容の充実に向けて、学校栄養士会と連携し、献立検討会を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各校の年間指導計画に基づき、授業研究を進めることができた。コロナ禍で停滞していた食に関する指導の授業実践を再開するきっかけとなった。 献立検討会は、紙面開催となったが、各校栄養士が自身の立案した献立内容を見直すよい機会となった。 食塩摂取量は年々減少傾向にあるものの、基準を超えている学校が小学校で32%、中学校で7%あった。 児童生徒の健康状態の改善に向けた取り組みについては、実施できなかった。 上記の理由のため、評価をBとした。	拡大	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭・学校栄養職員の資質の向上 給食主任研修の充実 「船橋の学校給食」に対する市民の理解を深めるための各種活動の推進 児童生徒の健康状態の改善に向けた調査、研究
1	1	8	学校保健教育の推進	保健体育課	児童生徒が健康に関心を持ち、自らの健康を管理し、改善することができるように支援する。全校において、教育活動全体を通して健康教育を推進し、性に関する指導、喫煙防止教育、エイズに関する指導、薬物乱用防止教育、心肺蘇生法実習など、保健教育を実践している。	<ul style="list-style-type: none"> 教科としての保健の授業をはじめ、学校教育活動全般を通して健康教育に各校が取り組んだ。 各中学校において、心肺蘇生法とAEDの実習を行った。 船橋市教育委員会研究指定校(健康教育)2年目の若松中学校で、「健康で豊かな心を育み、学びに向かう力を高める授業の実践」～主体的に学び、自己決定、自己解決する能力の育成～を研究主題とし、健康教育の推進を図るため、方向性などの検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科としての保健の授業をはじめ、学校教育活動全般を通して健康教育に各校が取り組んだ。 各中学校において、心肺蘇生法とAEDの実習を行った。 船橋市教育委員会研究指定校(健康教育)3年目の若松中学校で、「自己肯定感を高め、健康で豊かな心を育む教育実践」を研究主題とし、11月に公開研究会を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健年間計画において、自校の課題に基づいた計画、実践及び振り返りがみられた。 学校保健委員会の開催率は、新型コロナウイルス感染症対策のため53%と低かった。 学校だけではなく、学校医・学校歯科医・学校薬剤師や関係機関との連携を図っている。 心肺蘇生法・AEDのダミーを活用し、体験型の実習を行っている。ただし、呼吸吹込みの実習は新型コロナウイルス感染症対策のため行っていない。 上記の理由のため、評価をBとした。	継続	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健年間計画の作成と活用に対する助言。 学校保健委員会を、開催方法や内容を工夫して実施率を上げる。コロナ禍の課題を校内だけではなく学校医、保護者等と共有するための働きかけ。 感染症対策を講じた心肺蘇生法実習の継続。 健康教育指定校1年目となる海神中学校と協力し、研究の方向性を定めていく。
1	1	9	総合型地域スポーツクラブ	生涯スポーツ課	地域のスポーツ振興を目的とし、総合型地域スポーツクラブの設立を支援する。	新たなクラブ設立の相談はなく、クラブ数は4クラブと昨年度と変わらなかった。コロナ禍における活動について、活動場所の確保等の相談があり、相談支援を行った。	新たなクラブ設立の相談はなく、クラブ数は4クラブと昨年度と変わらずであった。令和3年度は船橋市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を開催し、各クラブの現状や課題を知ることができた。また、新型コロナウイルス感染症に関すること、運動部活動の地域移行に関すること、令和4年度から開始した総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度に関することについての情報収集や情報提供を実施した。	B	新たなクラブの設立に至らないことから、達成度はやや低いが、現存するクラブが活動を継続するための支援を実施できたことから、評価をBとした。	継続	新たなクラブの設立の支援を継続すると共に、新型コロナウイルス感染症に関すること、運動部活動の地域移行に関すること、令和4年度から開始した総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度に関することについての情報収集や情報提供を行いクラブの運営を支援します。
1	1	10	ふなばしシルバーリハビリ体操推進事業	健康づくり課	高齢者がいつまでもいきいきとした生活を続けられるよう、高齢者自らが自発的に健康の保持増進や介護予防を図り、健康寿命の延伸や生活の質の向上につなげることを目的に実施する。地域でシルバーリハビリ体操教室を開催するとともに(体操普及事業)、体操指導士養成講習会を開催し、体操教室などにおいて体操をボランティアで指導、普及する人材を市民から養成する(体操指導士養成事業)。 <体操指導士養成事業> ○初級指導士※1養成講習会の開催。 ・対象:市民及び在勤者で、体操の普及促進に意欲のある者 ・定員:30名 ・1コース、講習6日間(1日あたり5時間)、計30時間 ・体操指導士認定者向けにフォローアップ研修会、スキルアップ研修会を開催 ※1 地域で体操教室等を通して住民に対し体操を指導、普及する指導士。 ○上級指導士※2養成講習会の開催(平成30年度より実施) ・1コース、講習20時間。 ※2 初級指導士の育成もできる指導士。	<体操指導士養成事業> ・初級指導士養成講習会開催数:0回 ・申込者数:0名 ・初級指導士養成数:0名 ・フォローアップ研修会数:0回 ・スキルアップ研修会数:0回	<体操指導士養成事業> ・初級指導士養成講習会開催数:1回 ・申込者数:24名 ・初級指導士養成数:31名(令和元年度の途中中止コースも含む) ・フォローアップ研修会数:0回 ・スキルアップ研修会数:0回	B	<体操指導士養成事業> 新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度に途中で中止となった養成講習会1コース(土曜日コース)の再開および令和3年度分の1コース(平日コース)の実施ができた。 <体操指導士会> 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、講演会はオンラインの形式をとり実施した。その他は会報の発行等、体操指導士間の情報交換、ネットワークづくりに取り組んだ。	継続	今後も状況を鑑みつつ、高齢者の100人に1人の体操指導士が養成されるように実施方法を検討し、養成講習会や講演会の実施を目指す。
		10	ふなばしシルバーリハビリ体操推進事業	健康づくり課	<体操普及事業> ・対象:原則として65歳以上の市民。 ・全26公民館等で月1回体操教室を開催。 ・出前講座等の開催。 ・市内の住民の身近な場所で体操指導士が定期的に体操教室を開催。	<体操普及事業> ・市主催定期開催教室数:27館(年度の前期は新型コロナウイルス感染症の影響により中止) (会場によるがおよそ2ヶ月から3ヶ月に1回) ※24公民館、他3館 開催回数(延べ):45回 参加者数(延べ):858名 参加指導士数(延べ):347名 ・出前講座数:1ヶ所 参加者数(延べ):12名 ・その他教室数:0ヶ所 参加者数(延べ):0名 ・体操指導士開催教室数:35ヶ所 開催回数(延べ):209回 参加者数(延べ):2,298名 参加指導士数(延べ):725名	<体操普及事業> ・市主催定期開催教室数:27館 ※26公民館、他1館(会場によるがおよそ2ヶ月から3ヶ月に1回での実施) 開催回数(延べ):118回 参加者数(延べ):2,304名 参加指導士数(延べ):833名 ・出前講座数:3ヶ所 参加者数(延べ):43名 ・その他教室数:3ヶ所 参加者数(延べ):55名 ・体操指導士開催教室数:49ヶ所 開催回数(延べ):509回 参加者数(延べ):5,595名 参加指導士数(延べ):1,689名	B	<体操普及事業> 8月30日～9月30日は緊急事態宣言により中止、令和4年1月24日～3月31日は保健所の感染対策を中心とした業務執行体制整備のため中止となり、開催数は減少したが令和2年度と比較すると開催回数や参加者数は増加した。 令和3年度も感染対策を徹底した中で、体操教室及び体操指導士主催体操教室を開催し、新たな形で体操の普及に取り組んだ。	継続	今後も感染対策を徹底した中で、市主催の体操教室及び体操指導士主催の体操教室の開催を継続し、体操の周知、体操技術の標準化、体操指導士間の交流を図る。また、体操指導士および体操指導士会と協力し、体操の普及や教室が増えるよう取り組んでいく。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
1	2	1	ふなばし環境フェア	環境政策課	市民、事業者及び行政それぞれが、環境意識を高め、健全で恵み豊かな環境の実現を目指して、パネル展示、工作・体験コーナーなどを出展する。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、イベントを中止とした。	第24回ふなばし環境フェア 開催日時：6月26日(土)10:00~16:00 参加団体：38団体 来場者数：548人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催時間を3部制に分け、参加は事前申込制とした。	A	第24回は「環境のために今できること 探しに行こう！」をテーマに展示や工作・体験コーナーを設けた。市民団体や事業者、行政による環境保全の取組みに関するパネル展示や、アルミ缶クラフト、フジツボケーキを作るなど各参加団体が趣向を凝らし、会場は終日にぎわった。三番瀬の野鳥観察や干潟探検ミニツアーを行い、参加者に環境保全活動の体験や環境学習をしてもらった。	継続	令和4年度も三番瀬海浜公園・環境学習館で開催することが決まっているため、三番瀬ならではの企画を盛り込み、市民・事業者・行政による様々な意見やアイデアによりフェアを盛り上げていく。
1	2	2	夏休みセミのぬげから調査	環境政策課	平成16年度より、夏の代表的な昆虫であるセミのぬげがらを調べることで、身近な自然への関心を深める目的で実施している。夏休みの自由研究としても位置付けられ、セミのぬげがらを集め、その種類の調べ方を学び、ぬげがらの標準標本を作るほか、公園や緑地の自然度を調べることが可能である。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、イベントを中止とした。	令和3年度夏休みセミのぬげから調査 開催会場・日時・参加者： 運動公園 8月6日(金)9:15~12:30 23名 アンデルセン公園 8月11日(水)9:15~12:30 22名 行田公園東 8月17日(火)8:45~12:30 14名 行田公園西 8月20日(金)8:45~12:30 22名	A	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、例年と同じ内容でぬげがらの採取・分類・標本づくりを行うことができたため、評価をAとした。	継続	令和4年度も令和3年度と同じ会場にて4日程で実施予定。
1	2	3	ふなばし三番瀬クリーンアップ	環境政策課	・三番瀬についての関心と理解を深め、環境保全に向けた取り組みとして、浜辺の清掃(ふなばし三番瀬海浜公園)を行う。 ・清掃作業後、自然観察会などの各種イベントを開催し、楽しみながら三番瀬についての関心と理解を深める。 平成13年度から実施	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、清掃活動及びイベントを中止とした。 実行委員会において作成した環境保全啓発チラシを市内小学校等で配布した。 配布対象校数：55校 配布対象人数(小学3~6年生)：23,014人	開催日時:10月23日(土)9:00~13:30 参加人数:清掃296名、清掃後イベント約90名 回収したごみの量:322キロ (内訳 可燃ごみ:290キロ、不燃ごみ:32キロ)	A	砂浜の清掃後は参加団体によるイベントが開催され、参加者は楽しみながら、三番瀬についての関心と理解を深めることができたため、評価をAとした。	継続	ふなばし三番瀬海浜公園及びふなばし三番瀬環境学習館の指定管理者と協力しながら開催していく予定。
1	2	4	子どもエコクラブ (公益財団法人日本環境協会事業)	環境政策課	・子供の環境保全活動や環境学習を支援することにより、子供が人と環境の関わりについて幅広く理解を深める。 ・自然を大切に思う心や環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的とする事業として、推進、支援する。 平成17年度から支援。	登録団体に対し、環境イベント等の案内を送付した。 登録団体 8団体	登録団体に対し、環境イベント等の案内を送付した。 登録団体 10団体	A	登録済みの団体に対しては、ふなばし三番瀬環境学習館の「さばかん通信」や環境フェアチラシなど、各種イベント等に関する情報提供を行ったため、評価をAとした。	継続	引き続き登録済みの団体に対して、各種イベント等に関する情報提供を行う。
1	2	5	森林ボランティア団体による 里山の樹林保全活動の促進	農水産課	森林の保護、整備等適切な森林保護活動を行っている森林ボランティア団体に対し、整備に必要な機材等の支援を行い自然環境の維持保全を図る。	各ボランティア団体における機材所有状況及び本事業の利用状況等から、本事業開始当初の立上げ支援的な役割は既に終了していることから、委託による貸出業務を廃止することとした。また、令和2年度から新たに粉砕機の貸出業務を実施している。	令和4年2月26日、27日、3月5日、6日の計4日間にかけて、森林整備養成講座を実施した。(NPO法人こびすくらぶに業務委託)	B	令和2年度の講座は新型コロナウイルスまん延防止の観点から中止になっていたが、1年ぶりに講座を実施することができた。参加者は非常に熱心に受講しており、アンケートでも満足度が高かった。	縮小	令和4年度は森林整備養成講座の予算を計上していないが、今後の状況をみながら事業の実施を判断する必要がある。
1	2	6	自然散策会	環境政策課	・生物多様性ふなばし戦略の策定にあたり、基礎資料とすることを目的に実施した自然環境調査の成果品の一つである自然散策マップを利用して自然散策会を開催する。 ・自然散策会では、市内に残された貴重な自然環境に触れて、身近な自然への関心、理解を深めることでその保全につなげ、豊かな生物多様性と自然の恵みを未来へつないでいく。	自然散策会を実施するための予算が付かなかったため、実施できなかった。	自然散策会を実施するための予算が付かなかったため、実施できなかった。	C	令和3年度においても、自然散策会を実施するための予算がなく、実施できなかったが、自然散策マップを公共施設に配布し、市内に残された貴重な自然環境の周知に努めたことから、評価はCとした。	継続	令和4年度では、自然と触れ合う機会を提供するための自然散策会を春・秋にそれぞれ1回ずつ実施する。また、自然散策マップを公共施設に配布し、市内に残された貴重な自然環境の周知に努める。
1	2	7	市民参加型モニタリング調査	環境政策課	身近な動植物を探すことを通じて、市内の自然や生き物への関心を持ってもらうことを目的とする。調査の都度、対象となる動植物を選定し、家庭でも調査を行えるよう調査の手引きを作成・配布し、気軽に参加できることを目標の一つとした。 なお、当該事業は令和2年度より実施しているが、実施の方針が決定したのは令和2年5月頃であり、前年度照会時の新規事業調査票では未提出であった。	調査対象：セミのぬげから 報告件数：30件 参加者数：13組18名 報告匹数：3,503匹	調査対象：セミのぬげから 報告件数：32件 参加者数：5組7名 報告匹数：2,786匹	B	報告件数は昨年度と同程度だが、夏休みセミのぬげから調査が実施された影響か、参加組数が減少した。自身で調査した際の報告を促す周知を強化したり、夏休みセミのぬげから調査参加者への働きかけを工夫する必要があったと分析されるため、評価はBとした。	継続	令和4年度は指標種を拡大し、実施する。ツイッター、フェイスブックなどWEB媒体を活用した周知・報告の呼びかけも検討する。
1	3	1	国際理解セミナー	国際交流課	市民レベルでの国際交流の推進と国際感覚豊かな人材の育成を図るため、市国際交流協会が国際理解講座を開催する。	新型コロナウイルスの影響により未実施	新型コロナウイルスの影響により未実施	D	新型コロナウイルスの影響で事業を実施しなかったため評価をDとした。	継続	新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら実施を検討していく。
1	3	2	外国人ボランティア 講師派遣事業	国際交流課	国際交流協会に登録している外国人を公民館や市内小・中・高等学校等へ講師として派遣する。	新型コロナウイルスの影響により未実施	新型コロナウイルスの影響により未実施	D	新型コロナウイルスの影響で事業を実施しなかったため評価をDとした。	継続	公民館や市内小・中・高等学校等からの依頼があった場合、新型コロナウイルスの感染予防対策を図りながら、実施を検討していく。
1	3	3	日本語ひろば	国際交流課	テーマを決めて、日本語で会話や交流をすることにより、学んだ日本語を実際に使って覚え、実践力を養うための機会を提供する。	新型コロナウイルスの影響により未実施。 今後、新たにオンライン日本語ひろばを開設するための準備として、令和元年度参加者の一部を対象にオンラインの試行を行った。	参加者数51人 令和3年10月から、新たにWeb受付によるオンライン方式の日本語ひろばを開始した。 (令和3年4月から9月までは、活動中止)	B	令和3年度は、対面方式での事業は実施しなかったが、新たにオンライン方式の日本語ひろばを開設し、外国人が地域の人と気軽に交流をしながら日本語を使って覚える機会を提供したことから評価をBとした。	継続	コロナ禍においても、外国人住民が交流しながら日本語を使って覚える機会を提供するため、対面、オンライン両方式での運営を図っていく。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
1	3	4	帰国・外国人児童生徒への支援の充実	指導課	受入体制の整備及び外国人児童生徒の就学相談及び日本語指導。 日本語指導については、日本語指導員(指導課非常勤職員)及び日本語指導協力員(国際交流ボランティア)を小・中・高等学校に派遣し、日本語指導・適応指導を実施。	対象児童生徒数(令和3年2月) 小学校36校(163名) 中学校18校(59名)	対象児童数(令和4年2月) 小学校41校(167名) 中学校15校(62名)	A	国際交流課及び国際交流協会との連携を図り、日本語指導協力員の派遣が行われ、日本語の指導を要する児童生徒へきめ細かく指導でき、指導体制を整えることができた。そのため評価をAとした。	拡大	中国人やネパール人の編入が急増していることと、日本語指導ができる範囲外の国籍が増えていることを受け、国際交流課及び国際交流協会との連携をさらに図り、指導体制を整えていく。
1	4	1	初心者のためのパソコン講習会	社会教育課	パソコン初心者を対象とした講習会を民間事業者に委託し実施する。	受講者45人、年間2コース開催 平日(一日・2日間)コース	受講者116人、年間7コース開催 平日(一日・2日間)コース	A	年間7コースの実施ができ、受講者アンケートの結果「満足」「やや満足」と回答された方が9割を超える満足度であったことから、A評価とした。	継続	引き続き満足度の高い講習を実施していく。
1	4	2	家庭教育セミナー	社会教育課 ・公民館	PTAや成人教育団体を主体として、家庭教育に関すること、親子のふれあい・世代間交流に関すること、地域での子供の生活体験・生活体験学習に関することなどについて学習する。	開設団体数7団体 (PTA4、本館3) 実施回数7回 延参加者数316人	開設団体数31団体 (PTA15、本館16) 実施回数55回 延参加者数1,730人	B	新型コロナウイルス感染症の影響により休館期間が多かった令和2年度と比較して、実施公民館数、延参加者数ともに前年から増加した。 なお、開催時間が長く子どもの集中力がもたないなどの意見もあり評価をBとした。	継続	対象者が求める課題にマッチした内容の実施や開催時間等講座の構成等について検討していく。
1	5	1	健康教育事業(母子)	地域保健課	乳幼児の健康や保護者の育児不安を解決するとともに、正しい知識の普及を図るため、各保健センターや地区で健康講座を開催している。 昭和56年度から開始	地区教育 2回 44人 講座 0回 0人 計 2回 44人 ママ同窓会 (「ママ同窓会」はママになるための教室が平成31年度末で事業終了になるのと併せて事業終了)	母子講座 6講座計画 6講座実施 延べ人数44人 地区教育 18回実施 延べ人数 652人 思春期教育(中学校) 2校 2回実施 延べ人数 399人	B	令和2年度より新型コロナウイルス感染症の影響により、教育事業の中止・縮小を図っている。実施した事業においては参加人数を減らし、感染対策を行った。地区教育についても関係機関が感染予防のために事業の縮小・中止となったが、思春期教育については学校の協力によりWeb開催することができた。このため、令和2年度と同様にB評価とする。	継続	母子健康教育の参加人数が少ないため、講座名を変更し、広報にて公募するようにする。令和4年度も職員数が変わらないため、令和3年度同様に計画している。ただ講座の参加人数を増やすために保健センター・健診会場にてチラシを置いて周知を図る。
1	5	2	ブックスタート事業	地域保健課 ・西図書館	・親子が絵本を通して、触れ合い、語り合い、親子の絆を深めるため、4か月児健康相談時に大型絵本で読み聞かせを行い、絵本を配布している。 ・絵本の配布に併せて図書館の案内地図等を配布している。 平成15年度より開始	・配布人数 2,935人 ・配布冊数 2,935冊	・配布人数 3,384人 ・配布冊数 3,384冊	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度当初から4か月児健康相談(集団事業)を中止した為、読み聞かせは実施できなかった。対象者には、窓口来所を案内し、4か月児健康相談(個別)または、4か月児健康相談(予約制)を実施。個別面接時にブックスタート事業の意義を伝え、絵本、推薦図書を紹介したリーフレットを配布した。 社会的な問題により4か月児健康相談(集団事業)が実施できなかったが、前年度より来所数が増加し、より多くの方に絵本の配布ができた為、評価はBとした。	継続	4か月児健康相談(集団事業)が再開できるまでは、感染予防対策を講じながら、個別面接時、ブックスタート事業の目的である、生涯を通じて親子で読書を楽しむことができるような声かけを行い、図書館の活用を促していく。
1	5	3	母性教室	地域保健課	保健センターで、教室を実施。 妊娠・出産・育児についての正しい知識の普及。 昭和50年より開始	ハバママ教室 4回 36人 (妊婦のみ対象の母性教室：ママになるための教室は平成31年度末で事業終了)	ハバママ教室 48回 711人	B	妊婦が新型コロナウイルスに感染することは安心安全の中で出産を迎えることを妨げることから、感染対策を講じて実施するため、定員、開催時間を縮小し、実習内容を変更して実施せざるをえない状況となったが、年間を通して毎月実施できたため評価をBとした。	継続	1回の教室の定員や時間を縮小し、感染予防対策を講じながら、妊婦とその夫が安心して妊娠期を過ごすことができ、協力して子育てに臨めるようなきっかけづくりの場を提供するために安定した開催を目指す。
1	5	4	就学時健診等における子育て学習	社会教育課 ・公民館	子育てやしつけなどの家庭教育のあり方を見つめ直し、家庭の教育力を高めるために子育て講座を実施する。	実施小学校46校 延参加者数4,326人	実施小学校46校 延参加者数4,195人	B	参加した保護者に対して行ったアンケートでは、「とても参考になった」「やや参考になった」が96.7%となり、満足度の高い学習機会を提供することができたが、新型コロナウイルス感染症の影響により9校が未実施となったためB評価とした。	継続	アンケート結果の中には、考え方が古いなどの意見が見受けられたが、ほとんどの保護者からは内容等について高評価をいただけており、今後もアンケート結果を踏まえて内容を精査し継続していく。
1	5	5	家庭教育セミナー(再掲)	社会教育課 ・公民館	PTAや成人教育団体を主体として、家庭教育に関すること、親子のふれあい・世代間交流に関すること、地域での子供の生活体験・生活体験学習に関することなどについて学習する。	開設団体数7団体 (PTA4、本館3) 実施回数7回 延参加者数316人	開設団体数31団体 (PTA15、本館16) 実施回数55回 延参加者数1,730人	B	新型コロナウイルス感染症の影響により休館期間が多かった令和2年度と比較して、実施公民館数、延参加者数ともに前年から増加した。 なお、開催時間が長く子どもの集中力がもたないなどの意見もあり評価をBとした。	継続	対象者が求める課題にマッチした内容の実施や開催時間等講座の構成等について検討していく。
1	6	1	船橋市生き活き展	消費生活センター	消費者団体・企業・行政など各団体が日頃研究した成果を一同に発表することによって、消費者が消費生活の問題や知識を理解し、豊かでゆとりのある消費生活を営むことができるようになることを目的とし開催します。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面式の開催からホームページ上でのデジタル開催に変更した。閲覧数は2,500件を超える閲覧があり、アンケートも700件を超えた。	A	今年度は、対面での開催は出来なかったが、新たな試みとしてホームページ上でのデジタル開催とした。閲覧数も2,500を超え一定の成果があったと思われるため、評価をAとした。	継続	気軽に若者から高齢者まで多くの人に参加してもらい、消費者に問題解決への意識を得てもらおう。今後もデジタル開催を絡め現地開催(パネル展)なども併用し幅広い年代に参加してもらえるようにしていく。
1	6	2	消費者講座	消費生活センター	賢い消費者の育成を目指し、消費生活に関するいろいろな問題を取り上げ、専門講師による各種の講座を開催している。	5回 参加者数 参加者数328人(動画視聴含む)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面方式と動画配信の2通りの開催方法で実施した。 8回 参加者数232人 参加率66.3%	B	コロナ禍での開催となったが、対面方式での開催に加え状況に応じ動画配信で対応し、多くの方に参加いただいた。昨年よりも多く開催することができたが、参加者数が減少したため評価をBとした。	継続	多くの市民、世代の参加を得るため、消費者ニーズに合致した講座を開催していく。また、状況に応じ、動画配信できるような体制を整えていく。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
1	6	3	消費者月間記念事業	消費生活センター	消費者啓発の推進を図るため、記念講演及びパネル展等を開催している。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、満席252席のところ、募集を100席に減らし、動画配信でも対応した。 参加者数80人	A	コロナ禍の開催で、記念講演としては参加者が80人と少ない人数だが、対面式及び動画配信を併用することで可能な限り多くの方に参加していただいた。また、内容についても好評だったので評価をAとした。	継続	消費者ニーズに合った記念事業とすることで、啓発内容の理解を得る。
1	6	4	消費者団体育成事業	消費生活センター	消費者団体のより一層の育成を図るため、団体の実施する各種講座に研究者・専門家及び消費生活相談員を派遣している。	0回	新型コロナウイルス感染症の為、消費者団体からの講師派遣依頼は無かった。 0回	D	消費者団体の多くが活動を休止していたため、消費者団体育成事業を活用する団体が無かったためDとした。	継続	消費者団体のより一層の育成を図っていく。新型コロナウイルス感染症拡大防止等の為、消費者団体の活動が無い状態だが、講師派遣ができるよう体制を整えておく。
1	7	1	ふなばし市民大学校運営	社会教育課	まちづくり学部は、18歳以上を対象とし、スポーツや生涯学習、ボランティアなどを通して地域活動ができる人材の育成を、いきいき学部は、60歳以上を対象に、授業やクラス会での活動を通して、楽しい学生生活から「生きがいづくり」「仲間づくり」を目的とし、2学部・9学科で運営をしている。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、1年間休校となったため実績なし。	まちづくり学部 定員120人、入学者99人、修了者88人 いきいき学部 定員370人、入学者294人、修了者276人 特別講座 定員30人、入学者17人、修了者15人	A	令和3年度より、いきいき学部の対象を18歳以上に拡大したほか、学科の見直しや特別講座の新設など、新たなカリキュラムで授業を実施することができた。 なお、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い9月を休校としたが、可能な限り授業を振替するなどの対応を行った。	継続	引き続き、地域の学習需要に応じた講座を実施していく。
1	8	1	子育て情報誌発行	地域子育て支援課	子育てに関する市の各種サービスや相談窓口、幼稚園・保育園情報、医療機関情報等をまとめた情報誌「子育てナビゲーション」を発行し、母子健康手帳交付時に配布するほか、希望する市民に配布し、子育てに関する幅広い情報提供を行う事業。	36,000部発行 ※令和2年度から隔年発行となり、令和3年度は発行しない。	36,000部（隔年発行） 令和2年度から隔年発行となり、令和3年度は発行しない。	A	地域の子育て支援情報やサービスの最新情報を充実するとともに、見やすくわかりやすい記事とした。また、配布場所を増やすなど、利便性の向上に努めたため、評価をAとした。	継続	子育て家庭に求められ、より役立つ内容にするために掲載記事について検討する。令和4年度発行に向けて、他市の状況を研究している。
1	8	2	子育て支援センターの運営	地域子育て支援課	・子育て支援センターでは、子育て談話室、離乳食講座、子育て健康相談などの各種講座、及び講演会、年齢別・テーマ別の集いなどの継続的な子育て支援の取り組みを実施。また、専門知識を持ち様々な子育ての悩みに対応できる子育て支援コーディネーターを配置し、センター内だけでなく、希望に応じて他施設や家庭に出向いて子育て相談やアドバイスを行っている。 ・子育て支援センター設置数:市内2カ所	利用者 16,322人(2カ所計) 相談件数 10,105件(2カ所計) 動画配信件数 17件 心理士からのメッセージ掲載回数 4回	利用者 32,722人(2カ所計) 相談件数 14,271件(2カ所計) 動画配信件数 14件 オンライン事業参加者数 324人	A	新型コロナウイルス感染症対策のため令和3年8月30日から9月30日まで休館期間があったが、昨年度に比べて休館期間が短く施設運営が安定しており、来館者数が大幅に増加した。また、コロナ禍で子育て中の保護者が孤立化しないよう、自宅で楽しめる動画の配信をHPに掲載し、施設休館中も、電話相談や予約制での来所相談、訪問相談、オンライン事業を実施するなどニーズに応えた運営に努めたため、評価をAとした。	継続	新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら事業を継続していく。
1	8	3	保育園での地域交流事業	公立保育園管理課	・保育園では地域の子育て支援として、育児相談、育児講座、園庭開放を実施している。また、小・中・高校生のボランティア、体験学習を受け入れている。さらに、中央地区においては、地区の児童ホームと連携し「ほかほか広場」を開催し、事業の充実を図っている。 ・世代間交流としては、地域の高齢者との交流を図っている。また、「ふなっこメール」で地域交流の日程を配信している。 ・市のホームページで日程と事業内容を掲載している。	育児講座 0回 園庭開放 0回 育児相談 0回 ボランティア・体験学習 0人 新型コロナ感染症拡大防止のためすべての行事を中止とした。	育児講座 0回 園庭開放 0回 育児相談 0回 ボランティア・体験学習 0人 新型コロナ感染症拡大防止のためすべての行事を中止とした。	D	コロナ禍で地域の人との接触を控えたため、実施できなかった。	未定	今後の感染状況を見ながら、実施について検討していく。
1	8	4	保育園での食生活改善・食育の推進	公立保育園管理課	・保育園児や保護者、地域の子育て家庭に対し「食を楽しむ」ための環境づくりや食体験の場を提供。個々の発達に応じた食形態での食事の提供や介助から、食べる意欲につなげる。 ・食の自立に伴い栽培や調理体験から食への興味を上げ、個別に食に関する相談に応じる。	食支援行事参加者0人(試食会・親子クッキング等) 食育に関する行事は新型コロナ感染症予防のため中止とした。給食や各食育体験(行事食、野菜の栽培等)を教材にした食育事業を実施した。	食支援行事参加者0人(試食会・親子クッキング等) 食育に関する行事は新型コロナ感染症予防のため中止とした。給食や各食育体験(行事食、野菜の栽培等)を教材にした食育事業を実施した。	C	食育活動については、工夫をして食育の推進に努めた。	未定	今後の感染状況を見ながら、実施について検討していく。
1	8	5	乳幼児対象の児童ホーム事業	地域子育て支援課	児童ホームでは、地域に根ざした子育て支援事業を行っており、親子が気軽に集える場所を提供している。	利用者 93,056人(21カ所計)	利用者 413,558人(21カ所計)	A	新型コロナウイルス感染症対策のため令和3年8月30日から9月30日まで休館期間があったが、昨年度に比べて休館期間が短く施設運営が安定しており、来館者数が大幅に増加した。また、コロナ禍で子育て中の保護者が孤立化しないよう、自宅で楽しめる動画を配信し、施設休館中も、電話相談を実施するなどニーズに応えた運営に努めたため、評価をAとした。	継続	新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら事業を継続していく。
1	8	6	プラネタリウムの上映	総合教育センター	1学習放映:平日、保育園・幼稚園・小学校4年生等の団体を対象に実施 2一般放映:土・日曜日、市民を対象に実施。午前はキッズ向け放映、午後是一般向け放映	市内幼稚園・保育園学習放映観覧者数 588人 市内小学校学習放映観覧者数 3,734人 その他学習放映観覧者数 337人 一般放映観覧者数 3,690人	市内幼稚園・保育園学習放映観覧者数 2,503人 市内小学校学習放映観覧者数 4,654人 その他学習放映観覧者数 661人 一般放映観覧者数 9,059人	B	令和2年度に比べ、観覧者は増えたが、令和元年度以前の観覧者数に比べて、減少してしまっていることから、評価をBとした。	継続	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し、観覧者を増やしていきたい。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
1	8	7	ふなばし生涯学習フェア	社会教育課	多くの市民に生涯学習の機会を提供し、市民活動の充実や学習意欲の向上を図るとともに、市の生涯学習の振興を促す。企画・運営は、ふなばし市民大学校生涯学習サポート学科の学生が行い、生涯学習コーディネーターの育成も図っている。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、1年間休校となったため実績なし。	テーマ「もっと知ろうよ！わたしたちの“ふなばし”」 延べ参加者数264人 1. キセキのイセキ！！船橋市初の国指定史跡 取掛西貝塚 2. あなたの知らない船橋？！船橋の魅力を再発見！ 3. あなたのゴミが自然を壊す 4. 聞いて合点!!知って納得!!～ふなばしの現在そして未来へ～ 5. おいしいふなばし 野菜のおはなし 6. みて！きいて！はなそう！自分たちをとりまく人のために学び伝えよう 7. ふなばし市民バラスポーツ体験交流会	A	学生が企画・運営した講座を開催し、学びの成果を発揮することができた。	継続	令和4年度も生涯学習フェアの開催をカリキュラムに盛り込んでいる。新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防ガイドラインに基づき実施する。
1	8	8	家庭教育セミナー(再掲)	社会教育課・公民館	PTAや成人教育団体を主体として、家庭教育に関すること、親子のふれあい・世代間交流に関すること、地域での子供の生活体験・生活体験学習に関する事などについて学習する。	開設団体数 7団体 (PTA4、本館3) 実施回数 7回 延参加者数316人	開設団体数 31団体 (PTA15、本館16) 実施回数 55回 延参加者数1,730人	B	新型コロナウイルス感染症の影響により休館期間が多かった令和2年度と比較して、実施公民館数、延参加者数ともに前年から増加した。なお、開催時間が長く子どもの集中力がもたないなどの意見もあり評価をBとした。	継続	対象者が求める課題にマッチした内容の実施や開催時間等講座の構成等について検討していく。
1	8	9	高齢者学級	社会教育課・公民館	高齢者を対象とした、一般教養、趣味活動及び健康保持のための学習を実施する。	実施公民館 14館(全公民館) 延参加者数 1,070人	実施公民館 26館(全公民館) 延参加者数 8,321人	A	各館とも新型コロナウイルス感染症対策として定員を減らすなどの措置を施して実施し、延参加者数等も昨年度より増加した。なお、参加者は開催できたことを喜んでおり、事業に対する評価も高かったことから、A評価とした。	継続	高齢者から開催の要望が高く、人気のある事業の一つである。「人生100年時代」への対応として、高齢者を豊かに生きるために健康づくりや交流の場となるよう今後も継続していく。
1	8	10	子育てサロン	公民館	子育てに関する専門家や市の保健師・保育士を招いて、地域での子育て情報の提供の場、子育て世代同士の情報交換や仲間づくりの場として開催している。	7公民館で実施 学級 6事業 延参加者数 244人 集会活動 8事業 延参加者数 215人	15公民館で実施 学級 4事業 延参加者数 687人 集会活動 20事業 延参加者数 1,542人	A	事業数や参加者が大幅に増え、子育て世代の集まれる場所としての役割を担っている。	継続	引き続き、地区社会福祉協議会等と協力し、専門的分野の方による講演などを開催し、子育て世代への情報発信を進めて行く。
1	8	11	乳幼児対象の公民館事業	公民館	少子高齢化に伴い家庭や地域の教育機能が低下する中では、家庭だけでしつけや生活習慣を身につけることは困難なため、子供が自然や人とのふれあいの中で豊かな人間性が育まれるような事業を実施する。	学級講座 7事業 延参加者数 308人 集会活動 7事業 延参加者数 330人	15公民館で実施 学級講座 8事業 延参加者数 1,059人 集会活動 27事業 延参加者数 2,182人	A	乳幼児を持つ保護者の関心が高く、同じ悩みを持つ者同士の意見交換や交流の場として人気がある。	継続	同じ悩みを持つ親同士の交流の場として、また悩みごとの相談や子育てに関する講話など今後も実施していく。
1	8	12	青少年を対象とした公民館事業	公民館	・小・中学生を対象に各種事業を開催し、学校教育では成し得ない生活体験や自然体験を通して青少年の健全育成を図る。 ・体験活動、奉仕活動、仲間づくり等の事業を行う。	学級講座 4事業 延参加者数 170人 集会活動 36事業 延参加者数 1,171人	全公民館で実施 学級講座 28事業 延参加者数 1,483人 集会活動 224事業 延参加者数 7,003人	A	主に夏休みに行う小学生向け講座は人気が高く、募集開始とともに定員になるなど非常に関心の高い講座である。	継続	人気の高い事業なので今後も工夫を凝らし子供たちに魅力のある事業を実施していく。
1	8	13	成人を対象とした公民館事業	公民館	成人を対象とした事業は、年齢層も幅広いため多種多様な学習をしており、内容も入門的なものから高度なものまで学習者のニーズに応えて実施している。	学級講座 4事業 延参加者数 211人 集会活動 2事業 延参加者数 42人	全公民館で実施 学級講座 120事業 延参加者数 6,021人 集会活動 153事業 延参加者数 7,067人	A	デジタルデバイス対策事業として初めて全公民館でスマートフォンやタブレットの使用方法等についての講座を実施したが、内容が初心者向けなどとしたことで、高齢者の参加が多く、すぐに定員に達するなど人気の高い事業であった。	継続	デジタルデバイス対策事業については、今後も参加者のレベルに合わせた内容で実施していく。
1	8	14	高齢者を対象とした公民館事業	公民館	家庭や社会の中で健康を維持して暮らすとともに、高齢者同士の仲間づくりや世代交流などを目的に各種事業を実施している。また高齢者の知識や技能を生かした事業も行っている。	学級講座 12事業 延参加者数 913人 集会活動 2事業 延参加者数 97人	全公民館で実施 学級講座 62事業 延参加者数 10,665人 集会活動 53事業 延参加者数 3,005人 その他 1講座 延参加者数 79人	A	介護予防事業への参加者は多く、高齢者の健康維持等への関心の高さがうかがえた。	継続	コロナ禍における高齢者の引きこもりの防止や「人生100年時代」想定し、リカレント教育を実施するなど、高齢者の参加の場を広げていく。
1	8	15	ふなばしハッピーサタデー事業	青少年課・公民館	原則毎月第3土曜日を「ふなばしハッピーサタデー」とし、公民館が主体となり、町会・自治会や学校及び地域の青少年団体、児童ホーム等と連携を図りながら、各公民館において、スポーツ活動、文化活動、自然体験、子供まつり等子供が楽しく参加できる事業を行う。平成17年度から実施。	会場20公民館 延べ参加者数598人 事業数29回	会場26公民館 延べ参加者数5,202人 事業数198回	A	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めながら事業を実施し、令和2年度実績から参加者数、事業数ともに大幅に増加したことに加え、事業目標である「スポーツ・文化活動・自然体験・子どもまつり等子どもが楽しく参加できる事業を行う」についても概ね達成できたため、評価をAとした。	継続	新型コロナウイルス感染症対策等に取り組みながら、事業の実施に向け公民館等と検討・実施していく。
1	8	16	津別町青少年交流事業	青少年課	船橋市と北海道津別町の青少年が交互に訪問し合い、お互いの友情と相互理解を深めるなど、次代を担う青少年の健全育成を図っている。	船橋市へ津別町の青少年を迎え開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止。	船橋市の青少年が津別町を訪問し開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とし、代替案としてインターネットを活用した新しい形での交流を企画したが、津別町の青少年が集まらなかったため、中止となった。	D	津別町訪問に代わる代替案の実施に向けて準備を進めたが、津別町の青少年が集まらず代替案も含め中止とした。	継続	新型コロナウイルス感染症対策等に取り組みながら、事業を継続できるよう津別町等と協議のうえ、検討・実施していく。
1	8	17	乳幼児対象の図書館事業	西図書館	乳幼児と保護者対象の絵本の読み聞かせ会(えほんの会)を開催している。	・えほんの会 48回 参加者454人 ・自宅で楽しめる手遊び動画をYouTubeで公開した。	えほんの会 365回 参加者2,808人	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、9月～10月の一週目に開催を中止した期間があったが、概ね予定通り開催することができた。絵本やわらべうたを通して、親子の触れ合いの機会を作り、絵本の楽しさを伝えることができたことから、評価をAとした。	継続	感染対策を講じたうえで実施し、絵本の楽しさを伝えていく。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
1	8	18	児童・生徒を対象とした図書館事業	西図書館	資料の積極的な収集とレファレンスサービスの充実、物流システムによる学校への資料の貸出、施設見学や職場体験学習の積極的な受け入れ、各種おはなし会を開催している。	・本とおはなしの会 47回 参加者181人 ・臨時おはなし会 15回 参加者191人 ・図書館講座 2回 参加者16人	・本とおはなしの会 402回 参加者1,882人 ・臨時おはなし会 21回 318人 ・図書館講座 5回 参加者78人 (うち共催1回 4人)	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、8月末～10月の一週目に開催を中止した期間があったが、本とおはなしの会は概ね予定通り開催することができた。臨時おはなし会の開催や、図書館講座の開催数も増加したことから、評価をAとした。	継続	感染対策を講じたうえでおはなし会等を実施し、継続した読書活動に繋げていく。
1	8	19	青年を対象とした図書館事業	西図書館	・資料の積極的な収集とレファレンスサービスの充実を図っている。 ・ヤングアダルトコーナーの新刊リストの作成をしている。 ・平成28年度から新たに東図書館・西図書館でYAコーナーを設置するなど、各館の状況を鑑みて整備を進めている。	・西図書館、東図書館にて情報誌を作成し、配布した。 ・4館でコミュニケーションボードを設置し、利用者間の交流を図った。 ・西図書館で展示架を新たに2点購入し、資料が来館者の目につくように工夫した。 ・4館所蔵冊数:16,077冊	・図書館講座 2回 参加者60人 ・西図書館、東図書館にて情報誌を作成し、配布した。 ・4館に設置したコミュニケーションボードを通して、利用者間の交流を図った。 ・西図書館の情報誌に投稿コーナーを設け、投稿されたイラストやおススメの本を館内や情報誌で紹介し、利用者間の交流の場を増やした。 ・4館所蔵冊数17,222冊	A	西図書館と中央図書館で1回ずつ、新たにYA向けの講座を行った。情報誌の作成と、コミュニケーションボードでの利用者同士の交流を継続して行った。また、引き続き所蔵冊数が増加したこと、西図書館で新たに交流の場を設けたことにより、YAコーナーの資料の充実と貸出、興味関心につながるような工夫を行ったことから、評価をAとした。	継続	YA向けの講座や情報誌、コミュニケーションボードを用いた利用者間の交流等、今後も興味関心を持たれるように、内容を精査し、図書館利用や読書活動へ繋げていく。
1	8	20	成人を対象とした図書館事業	西図書館	資料の積極的な収集、レファレンスサービスの充実、資料展示コーナーの設置と拡充を図っている。また、大人のためのおはなし会や図書館講座等を開催している。	・図書館講座 10回 参加者111人 (うち共催5回、54人) ・読み聞かせボランティアの育成講座 3回 参加者26人 ・西図書館ギャラリー展示 3回	・図書館講座 35回 参加者455人 (うち共催17回 215人) ・読み聞かせボランティア入門・育成講座 4回 参加者72人 ・西図書館ギャラリー展示 5回	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、8/31～9/30までイベント自粛期間となったため、予定していた事業が行えなかったが、オンラインを活用するなど各館工夫を行い、例年に近い頻度での事業を実施し、参加者も増加したことから、評価をAとした。	継続	図書館活用講座や読み聞かせボランティア育成講座、作家講演会等今後も積極的に開催していき、読書振興につなげる。
1	8	21	高齢者を対象とした図書館事業	西図書館	資料の積極的な収集とレファレンスサービスの充実、大活字コーナーの設置と拡充に努めている。 (12年度：1,543冊、平成23年度：2,108冊)	・令和2年度大活字本4館所蔵冊数：3,222冊	・高齢者向け事業 5回 参加者36人 ・令和3年度大活字本4館所蔵冊数：3,243冊	A	高齢者向け事業を開催したことに加え、大活字本の所蔵を引き続き行うなど高齢者向け資料の購入を継続していること、また周知をはかるために大活字本の展示を行ったことから、評価をAとした。	継続	積極的に事業の開催を進め、高齢者の社会参加の機会を増やす。また、高齢者のニーズに沿った資料の収集に努め、利用率の増加に繋げていく。
1	8	22	セカンドブック事業	西図書館	・対象者向けに「セカンドブックえほんの会」を開催し、配付する絵本の読み聞かせやわらべうたを行う。 ・ブックスタート事業に引き続き、子供が本に親しむ機会を提供するとともに、親子で過ごす居場所の選択肢として図書館を提供し、子育て支援にも資することを目的としている。 ・1歳6か月児健康診査受診者に、図書館で絵本を1冊配付する。	・絵本配付冊数 2,257冊 ・「みんなの掲示板」で新たに周知を行った。 ・新型コロナウイルス感染症のため、3歳までの受取期限内に絵本を受け取れなかった方の、受取期限を延長した。 ・大穴小学校市民図書室とネットワーク化したことで、セカンドブックの配付場所が増加した。	・絵本配付冊数 2,663冊 ・1歳6か月～3歳の誕生日に転入した子供への配付を開始した。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、3歳までの受取期限を4歳までに延長した。 ・飯山海公民館図書コーナー、八木が谷公民館図書コーナー、松が丘公民館図書室とネットワーク化したことで、セカンドブックの配付場所が拡充した。	A	新型コロナウイルス感染症の影響により配付数が減少していたが、受取期限の延長や転入者への配付を開始したことで、配付数が増加した。また、ネットワーク化した図書コーナー、公民館図書室での配付を開始し、配付場所の拡充を図ったことから、評価をAとした。なお、「セカンドブックえほんの会」は「えほんの会」と統合したため、令和元年度から「えほんの会」の開催数に含まれている。	拡大	セカンドブックの周知に努め、より多くの子供達に絵本を配付し、継続した読書活動に繋げていく。
1	8	23	日本語教室	国際交流課	日本人と外国人が共生できる地域社会の形成を図るために、外国人住民の地域参加に役立つ日本語の習得支援を目的に市内公民館等で対面授業を開催するほか、令和3年度からオンラインによる日本語教室を新たに開設した。	新型コロナウイルスの影響により未実施。今後、新たにオンライン日本語教室を開設するための準備として、令和元年度参加者の一部を対象にオンラインの試行を行った。	学習者数90人(成人向け日本語教室) 28人(子ども向け日本語教室) 令和3年9月から、新たに学習期間を設定したカリキュラムを導入し、Web受付による対面・オンライン両方式の日本語教室を開始した。 (令和3年4月から8月までは、活動中止) ※令和2年度までは1回の授業ごとの学習者の人数を指標としていたが、令和3年度からは新たにカリキュラムを導入したことに伴い、学習期間ごとの申込者数を合計して指標とする方法に変更した。	B	コロナ禍においても、感染対策を徹底しながら対面授業を再開したほか、令和3年度から新たにオンラインによる日本語教室を開設し、外国人住民の地域参加に役立つ日本語の習得支援を図ることができた。一方で、学習者数はコロナ禍前の人数まで戻っていないことから評価をBとした。	継続	日本語教育推進法の趣旨もふまえ、今後も増加が見込まれる外国人住民が1日も早く日本社会に溶け込み生活できるよう、日常生活に必要な日本語を学習する機会を継続的に提供するため、対面、オンライン両方式での運営を図っていく。
1	8	24	いきいき同窓会交流事業補助金	高齢者福祉課	旧老人大学、いなばし市民大学校いきいき学部の修了生で組織された「いきいき同窓会」が行っている会員相互の親睦、研修、健康づくり、ボランティアなどの活動に対して、これらの活動が円滑に行えるよう補助金を交付している。	補助金 377,700円 会員数 1,294人	補助金 593,100円 会員数 986人	B	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、予定していた共催及び後援のイベントが多数中止となったため、評価をBとした。	継続	引き続き高齢者の生きがいづくりを支援する。
1	8	25	いなばし夏のボランティア体験事業	市民協働課	夏休み期間中、中学生・高校生・専門学校生・大学生を対象に、地域で活動を行う市民活動団体やボランティアグループの活動、また福祉施設でのボランティア活動を実際に体験するイベントとして、「地域に飛び出せ!!いなばし夏のボランティア体験」を開催する。 このボランティア体験を通し、市民活動やボランティアを始めるきっかけとすることや、地域を支える大人たちと一緒に活動することで、学生たちに人と協力し合う大切さを実感してもらい、いれあいにみちたコミュニティの育成につなげる。	感染症の感染拡大防止の目的で、事業を実施しなかった。	・主催 船橋市市民協働課 ・共催 船橋市市民活動サポートセンター運営協議会 船橋市ボランティアセンター(船橋市社会福祉協議会) 東邦大学TOHOボランティア部 ・学生ボランティア受入協力団体・施設(市民活動団体)10団体(福祉施設等)14施設 ・ボランティア体験者 395人 ・団体、施設による受入延人数 464人 ※ボランティア体験に先立って開催するマッチング会(生徒等と受入先が一堂に会するイベント)は、感染症対策のため中止した。	A	市内の全中学校、高校に原則生徒分の学生募集チラシを配布、また、市内にある専門学校にも配布した。 感染症対策の観点からマッチング会は中止としたが、体験先を選ぶ際の参考とする体験メニューの編集を工夫し、体験先を選びやすいよう配慮した。 参加した生徒等からのアンケート結果は概ね「良い体験になった」との回答を得ている。 上記を理由として、評価をAとした。	継続	令和3年度に中止したマッチング会を復活し、手厚いマッチングのサポートを実施し、生徒等にとってより充実した事業とする。
1	9	1	星を見る会、特別放映、出張星空教室	総合教育センター	初歩的な天文に関する講座や天体観測を行う天文教室(平成4年から)や星を見る会(昭和62年から)、プラネタリウム放映(平成4年から)にあわせて音楽やお話の集い、特別放映などを行う。	星を見る会10回(180名の申込、27名の参加、9回が中止) 特別放映 1回(37名の参加) 出張星空教室0回(新型コロナウイルスのため中止)	星を見る会10回(2,148名の申込、354名の参加、1回が中止) 特別放映 1回(20名の参加) 出張星空教室0回(新型コロナウイルスのため中止)	B	コロナ禍で未実施の回があったが、可能な限り実施したので評価をBとした。	縮小	「出張星空教室」については、新型コロナウイルス感染症の感染防止、また教職員の働き方改革の観点から希望する学校が減少している。そのため、「出張星空教室」を縮小する。
1	9	2	科学の広場	総合教育センター	身近な科学に関する楽しい実験や工作を行っている。 平成5年から実施	実施することができなかった。	実施することができなかった。	D	実施しておらず評価できないためDとした。	継続	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、継続していきたい。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
1	9	3	世代間交流を目的とした公民館事業	公民館	核家族化の進行や少子高齢化により、家庭や地域などにおいて異世代との交流が減少し、様々な影響がでている。世代間による交流事業を行う事により、心のふれあいや相互理解を深めるとともに、地域社会でともに暮らしているという認識を育む。	学級講座 1事業 延参加者数 78人 集会活動 1事業 延参加者数 20人	学級講座 7事業 延参加者数 753人 集会活動 7事業 延参加者数 372人	A	公民館のサークル活動を行っている団体や地区社会福祉協議会など地域の団体が小学校等の協力を得て事業を実施した。	継続	引き続き地域の小学校等の協力を得て、地域団体との異世代間の交流を図っていく。
1	9	4	ふなばし音楽フェスティバル・千人の音楽祭	文化課	市内の小・中・高校と一般の音楽団体が船橋アリーナで一堂に会する「千人の音楽祭」をはじめ、公民館等を中心に地域で音楽を楽しめる「地域ふれあいコンサート」を開催することで、2月を音楽月間として位置付け、市内各地で音楽行事による世代間の交流を推進している。	ふなばし音楽フェスティバル全13事業（11事業が新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため会場での開催中止、2事業においても無観客での実施） 入場者数 0人 出演者数 145人 ※地域ふれあいコンサート 6会場予定（新型コロナウイルスの影響により会場での開催中止） 4会場の出演者によるオンラインコンサートを開催。 視聴回数 4会場あわせて1,759回 （令和3年3月31日17時時点） ※千人の音楽祭 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため会場での開催を中止。特別番組を制作し、J:COMチャンネルにて放映。 放送日時 3月7日(日)15:00	ふなばし音楽フェスティバル全11事業 入場者数 2,178人 出演者数 447人 ※地域ふれあいコンサート（1会場が新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため会場での開催中止） 16会場 入場者数 1,023人 出演者数 45人 ※千人の音楽祭 事前収録動画をJ:COMチャンネル（地デジ11チャンネル）の特別番組として放映 放送日時 3月13日(日)15:00	B	地域ふれあいコンサートでは1会場での開催が中止となった。千人の音楽祭は昨年引き続き船橋アリーナでの開催を断念し、J:COMでの番組放映を前提としたイベントづくりを行った。番組では、千葉県出身の作曲家・ピアニストである新垣隆氏に委嘱した「わたぼうし」を和田一樹氏のタクトで、千葉交響楽団と市立船橋高等学校吹奏楽部が演奏。また、東京2020パラリンピック開会式にも参加した小汐唯菜さんが、歌唱演奏するとともに、後藤仁美さんがシンガーソングライター声松優一さん、演出家の岡元邦治さんとの対談・セッションに参加し番組に彩りを添えた。そのほか、中学校吹奏楽部4校によるリレー形式での楽曲演奏や小学校での活動の様子の紹介、バンドスタンド船橋実行委員会による映像提供などで、現在の船橋の音楽活動の状況を伝えることができた。コロナ禍において、配信やケーブルテレビの番組放映といった取り組みを行い、本市の音楽文化の振興・継続性の確保ができたため評価をBとする。	継続	ふなばし音楽フェスティバル事業は、市民の音楽活動が盛んであるという本市の文化的特徴を生かし、市民が実行委員会を組織し主体的に企画・運営を行っている、船橋ならではの音楽事業といえる。事業を担う実行委員メンバーの世代交代が共通の課題となっているため、事業に関わる人のすそ野を広げ、事業を継続していくための人材育成に注力していく。千人の音楽祭では、新型コロナウイルスの収束は見通せないが、令和4年度には第30回開催を迎えることから、小中高校生から社会人の音楽団体までが船橋アリーナに一堂に会し、イベントを開催できるよう継続して取り組みを進めていく。
1	9	5	少年少女交歓大会	青少年課	市内の青少年団体と一般参加の子供たちが一堂に会し、様々なイベントを通して、団体相互の連携強化と青少年の交流を深めている。	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止。	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、当初予定をしていた5月から12月に延期とし準備を進めていたが、延期後の日程についても新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。	D	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。	継続	新型コロナウイルス感染症対策等に取り組みながら、新しい形の交歓大会について、実行委員会で検討・実施していく。
1	9	6	青少年キャンプ事業	青少年課	集団野外活動を通じて、自らの創意工夫・仲間作りを推進する一方で、規律習慣等を体得させ、青少年の健全育成に寄与すると共に、青少年の交流とジュニアリーダーの育成を図っている。	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止。	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、当初予定をしていた7月から10月に延期とし準備を進めていたが、延期後の日程についても新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。	D	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。	継続	新型コロナウイルス感染症対策等に取り組みながら、青少年の体験活動について、船橋市青少年相談員連絡協議会と協議のうえ、検討・実施していく。
1	9	7	津別町青少年交流事業(再掲)	青少年課	船橋市と北海道津別町の青少年が交互に訪問し合い、お互いの友情と相互理解を深めるなど、次代を担う青少年の健全育成を図っている。	船橋市へ津別町の青少年を迎え開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止。	船橋市の青少年が津別町を訪問し開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とし、代替案としてインターネットを活用した新しい形での交流を企画したが、津別町の青少年が集まらなかったため、中止となった。	D	代替案の実施に向けて準備を進めたが、津別町の青少年が集まらなかったため中止とした。	継続	新型コロナウイルス感染症対策等に取り組みながら、事業を継続できるよう津別町等と協議のうえ、検討・実施していく。
1	10	1	船橋市民マラソン大会	生涯スポーツ課	運動公園を会場に、子供から高齢者までの各部門を設定することで、幅広い年代層の参加がある。	主催者、主管者、その他関係団体と協議・検討した結果、スタート・ゴール・中継所等にて3密を避けられないことや、必要な競技役員人数が確保できないことから、中止となった。	主催者、主管者、その他関係団体と構成する「船橋市マラソン・駅伝実行委員会」にて協議・検討した結果、開催が困難と判断したことから中止となった。	C	大会が中止であったため、達成度は低いが、船橋市マラソン・駅伝実行委員会、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や新しい生活様式に対応した大会の開催について協議・検討を行ったことから、評価をCとした。	継続	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や新しい生活様式に対応した大会の開催について、引き続き大会の実施について協議・検討を行い、市民の安全が確保されうえて、大会を開催していく。
1	10	2	成人の日記念船橋市民駅伝競走大会	生涯スポーツ課	運動公園から、市北部を通り、船橋アリーナまで6区間を駆け抜ける、中学生以上の男子を対象とした駅伝大会を実施している。	主催者、主管者、その他関係団体と協議・検討した結果、スタート・ゴール・中継所等にて3密を避けられないことや、必要な競技役員人数が確保できないことから、中止となった。	主催者、主管者、その他関係団体と構成する「船橋市マラソン・駅伝実行委員会」にて協議・検討した結果、開催が困難と判断したことから中止となった。	C	大会が中止であったため、達成度は低いが、船橋市マラソン・駅伝実行委員会、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や新しい生活様式に対応した大会の開催について協議・検討を行ったことから、評価をCとした。	継続	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や新しい生活様式に対応した大会の開催について、引き続き大会の実施について協議・検討を行い、市民の安全が確保されうえて、大会を開催していく。
1	10	3	船橋市小学生女子駅伝競走大会	生涯スポーツ課	運動公園を会場に、小学生男女及び女子(中学生以上)を対象とした駅伝大会を実施している。	主催者、主管者、その他関係団体と協議・検討した結果、スタート・ゴール・中継所等にて3密を避けられないことや、必要な競技役員人数が確保できないことから、中止となった。	主催者、主管者、その他関係団体と構成する「船橋市マラソン・駅伝実行委員会」にて協議・検討した結果、開催が困難と判断したことから中止となった。	C	大会が中止であったため、達成度は低いが、船橋市マラソン・駅伝実行委員会、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や新しい生活様式に対応した大会の開催について協議・検討を行ったことから、評価をCとした。	継続	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や新しい生活様式に対応した大会の開催について、引き続き大会の実施について協議・検討を行い、市民の安全が確保されうえて、大会を開催していく。
1	10	4	総合型地域スポーツクラブ(再掲)	生涯スポーツ課	地域のスポーツ振興を目的とし、総合型地域スポーツクラブの設立を支援する。	新たなクラブ設立の相談はなく、クラブ数は4クラブと昨年度と変わらなかった。コロナ禍における活動について、活動場所の確保等の相談があり、相談支援を行った。	新たなクラブ設立の相談はなく、クラブ数は4クラブと昨年度と変わらずであった。令和3年度は船橋市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を開催し、各クラブの現状や課題を知ることができた。また、新型コロナウイルス感染症に関すること、運動部活動の地域移行に関すること、令和4年度から開始した総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度に関することについての情報収集や情報提供を実施した。	B	新たなクラブの設立に至らないことから、達成度はやや低いが、現存するクラブが活動を継続するための支援を実施できたことから、評価をBとした。	継続	新たなクラブの設立の支援を継続すると共に、新型コロナウイルス感染症に関すること、運動部活動の地域移行に関すること、令和4年度から開始した総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度に関することについての情報収集や情報提供を行いクラブの運営を支援します。
1	10	5	ゲートボール場管理運営費	高齢者福祉課	高齢者の仲間づくりと健康の維持・増進を図るためにゲートボール場を管理運営している。	5ヶ所 利用延人数 7,596人	5ヶ所 利用延人数 9,245人	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が減少したため（例年より10%減少）、評価をBとした。	継続	引き続き、感染症対策を実施しつつ高齢者が運動できる場所を確保する。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
1	11	1	21世紀のデジタルプロジェクトの充実	郷土資料館	平成12年度から実施。市民からの提供写真や市の保有する写真・映像をデジタル化して保存するとともに、市内公共施設等において公開展示を行う。	他部署及び団体への協力事業 10事業 企画展については新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により未実施。	他部署及び団体への協力事業 7事業 企画展については新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により未実施。	A	これまでデジタル化した写真資料が、7の部署・団体への協力事業においてパネル制作等に有効活用されたため、評価をAとした。	継続	写真資料の収集、デジタル化及び当該資料の活用については、今後も継続して実施していく。
1	11	2	各種芸術文化事業の主催および、共催・後援	文化課	・各種芸術文化事業を主催および、共催・後援をすることにより、市民への芸術文化の振興、文芸創造活動の推進、各種芸術文化団体の育成指導を図る。 ・後援事業については高い申請数があり、市民自らが参画する文化活動の場の充実を図っている。	主催8事業、共催0事業、後援19事業	主催7事業、共催9事業、後援53事業	B	開催時期や事業の内容によって、コロナ禍での開催の有無や事業形態の変更等の対応が分かれた。「市展」は通常どおり開催、「市所蔵作品展」は関連イベントも充実し、盛会で終えることができた。ふなばしミュージックストリートは事前収録動画の配信、無観客でのMCチャンネルの生配信を行った。実施方法を工夫し、事業を開催したことから評価をBとする。	継続	今後も時代に即した方法を取り入れながら、主催事業の実施および文化団体等の事業の共催・後援を通じて、市民の芸術文化の振興、文化創造活動の推進、各種芸術文化団体の活動支援を図っていく。
1	11	3	まちかど音楽ステージ (ふなばし音楽フェスティバル)	文化課	市内の駅前や商店街などの「まちかど」を音楽演奏のためのステージとすることで、市民の皆様へ音楽を身近に届け、商店街の活性化と地域に根差した音楽家の支援を目指す。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を中止。 (ステージ開催予定 祝日を除く4月第3週から12月第4週の金曜日 18時から20時30分)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を中止。	D	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を実施していないことから達成度としてD評価とした。	継続	令和元年度に市の直営事業からふなばし音楽フェスティバル事業に位置付けられ、実行委員会形式で実施することで、市民の主体性や創造性を生かし、まちゆく人が身近にライブ演奏を楽しめるよう企画内容の充実を目指すこととした。コロナ禍の収束状況を見極めながら、ふなばしミュージックストリートなどの事業との連携なども視野に入れ、可能な範囲で事業を再開していく。
1	11	4	ふなばしミュージックストリート (ふなばし音楽フェスティバル)	文化課	『音楽でまちを元気に!』をテーマに、秋にJR船橋駅周辺の複数会場で同時に音楽ステージを設置。プロやアマチュアの演奏家による様々なジャンルの音楽に包まれた一日とする。	・開催日時 令和2年10月18日(日) 11:00~18:00 ※アーカイブ配信 10月19日(月)~31日(土) ・開催方式 ライブ配信(3会場)、動画配信 ・出演者 26組・65名 (事前収録動画出演者)16組・56名 (企画出演者)5名 ・視聴回数 延べ 10,611回(当日ライブ視聴 5,665回/アーカイブ視聴 4,946回)	・開催日時 令和3年10月17日(日) 11:00~16:45 ※アーカイブ配信 イベント終了時~31日(日) ・開催方式 事前収録動画の配信、MCチャンネルの生配信 ・出演者 42組・129名 ・視聴回数 演奏動画チャンネル 8,893回(当日視聴回数3,928回/アーカイブ視聴4,965回) MCチャンネル 1,729回(イベント当日視聴のみ)	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、出演者・ボランティア募集開始後もイベント開催形態の変更を余儀なくされたが、実行委員・ボランティア・出演者あわせて165名が参加し、すべての事前収録動画及びMCトークチャンネルの配信を無事終えることができた。 イベント当日の配信時には、5つのチャンネルで延べ5650回を超える視聴回数があり、多くの方に音楽の力を感じていただくことができた。特に、配信動画のチャット機能を使い、出演者と視聴者がお互いにコメントを寄せあうなど、配信型イベントの特性を活かしながら参加者の皆さんがイベントを楽しんでいる様子が見えた。 また、イベント終了後、演奏動画のアーカイブ配信を行い、アーカイブ配信を含め延べ約8,900回の視聴回数を確認したことから、今年の開催コンセプトである「立ち上がりミュージックパワー」を体現すべく、「音楽の力」を届ける取り組みを行ったため評価をBとする。	継続	令和2年度と同じく、令和3年度も現地ではなくオンラインでの開催だったが、市民を中心とした実行委員会が蓄積した配信のノウハウを生かしつつ新たな試みに挑戦することができた。また、オンラインの取り組みは視聴者が自宅から気軽に参加できるとともに、イベントの広がりにも有効であることから、今後も会場での有観客ライブと併用したイベントづくりを検討していく。なお、実行委員会の自主財源確保や実行委員会の担い手の確保に努め、目的をより明確にし、地域に根付いたイベントとして市民への浸透を図っていく必要がある。
1	12	1	ノーマライゼーションを理解することを目的とした公民館事業	公民館	障害者に加え、高齢者や外国人などを含めた「社会的不利な状況に置かれた人々全般への支援」へと広がる「ノーマライゼーション」の考え方に沿った学習や交流の機会提供を進める。	学級講座 2事業 延べ参加者数 83人 集会活動 2事業 延べ参加者数 154人	学級講座 2事業 延べ参加者数 567人 集会活動 2事業 延べ参加者数 23人	B	参加人数は若干増えたが事業数は令和2年度と同数であり、ノーマライゼーションへの関心が低かったため評価をBとした。	継続	ノーマライゼーションの考え方は非常に大事であるため、理解を深めるための講座を実施していく。
1	12	2	日本語教室(再掲)	国際交流課	日本人と外国人が共生できる地域社会の形成を図るために、外国人住民の地域参加に役立つ日本語の習得支援を目的に市内公民館等で対面授業を開催するほか、令和3年度からオンラインによる日本語教室を新たに開設した。	新型コロナウイルスの影響により未実施。 今後、新たにオンライン日本語教室を開設するための準備として、令和元年度参加者の一部を対象にオンラインの試行を行った。	学習者数90人(成人向け日本語教室) 28人(子ども向け日本語教室) 令和3年9月から、新たに学習期間を設定したカリキュラム制を導入し、Web受付による対面・オンライン両方式の日本語教室を開始した。 (令和3年4月から8月までは、活動中止) ※令和2年度までは1回の授業ごとの学習者の人数を指標としていたが、令和3年度からは新たにカリキュラム制を導入したことに伴い、学習期間ごとの申込者数を合計して指標とする方法に変更した。	B	コロナ禍においても、感染対策を徹底しながら対面授業を再開したほか、令和3年度から新たにオンラインによる日本語教室を開設し、外国人住民の地域参加に役立つ日本語の習得支援を図ることができた。一方で、学習者数はコロナ禍前の人数まで戻っていないことから評価をBとした。	継続	日本語教育推進法の趣旨もふまえ、今後も増加が見込まれる外国人住民が1日も早く日本社会に溶け込み生活できるよう、日常生活に必要な日本語を学習する機会を継続的に提供するため、対面、オンライン両方式での運営を図っていく。
1	12	3	地域福祉活動助成交付金事業	地域福祉課	船橋市福祉基金の運用益等を活用し、市民活動団体が行う地域福祉活動に要する事業費の一部を助成することにより、市民活動の振興を図り、地域福祉の推進に資することを目的とした事業。	交付団体数 16団体	交付団体数 15団体	B	申請団体21団体のうち19団体への交付を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う事業中止等の影響もあり交付団体数は15団体となった。新規申請団体が7団体あり、前年の1団体から大きく増加した。	継続	令和4年度も引き続き地域福祉活動団体への助成を継続して実施する。
1	13	1	研修会・講座開催	市民協働課	人権啓発としてDVに関する講座を開催。	講座は新型コロナウイルス感染症拡大により実施せず。代わりにデートDV及びDVのパネル展示を、11月に市役所本庁舎と男女共同参画センターで実施。	・デートDV フェスティバルでのパネル展示 ・DV講座 家庭問題を考える講座 ～あなたはパートナーに“No”と言えますか?～ 11名(市民向け)	A	DV講座の参加者数は例年並みであったものの、新型コロナウイルス感染症拡大により実施できなかったデートDV講座は、フェスティバルでパネル展示を行うことで、講座を行うよりも多くの方の目に触れる機会を設けることができたため、評価をAとした。	継続	DVまたはデートDVの講座を今後も実施していくとともに、若年層に向けた啓発方法を検討していく。
1	13	2	人権の花運動	地域福祉課	・「人権啓発活動地方委託事業」の「地域人権啓発活動活性化事業」として船橋地域人権啓発ネットワーク協議会と協力し、平成20年度より船橋市と八千代市が毎年交替で実施。 ・人権擁護委員が小学校に出向き、「人権講座」とチューリップの球根を植え、花を育てることを通じ、生命の尊さを実感する。	隔年で八千代市と交代に実施。令和2年度は八千代市で実施。	八千代市で実施。令和4年度は船橋市の予定		隔年で八千代市と交代に実施。令和3年度は八千代市で実施。	継続	令和4年度については船橋市が担当となるため、船橋地域人権啓発ネットワーク協議会と連携し、人権意識の啓発を図っていく。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
1	13	3	人権意識を高めることを目的とした公民館事業	公民館	一人ひとりが人権意識を高めていくため、啓発活動や多様な場での学習機会を提供し、社会を構成する人々全員への正しい理解を広める。	新型コロナウイルスの影響により実施なし	学級講座 1事業 延参加者数 78人 集会活動 1事業 延参加者数 44人	B	2公民館で実施。人権意識の啓発活動は必要な事であるが実施館が少なく評価をBとした。	継続	人権意識を広めるために公民館における講座の開催は重要と考え、実施回数を増やしていく。
1	13	4	地域人権啓発活動活性化事業	地域福祉課	・「人権啓発活動地方委託事業」の「地域人権啓発活動活性化事業」として船橋地域人権啓発ネットワーク協議会と協力し、平成17年度より1年おきに実施。 ・関係団体等と連携した人権啓発イベントを行う。	隔年で八千代市と交代に実施。令和2年度は八千代市で実施予定であったが、イベントが延期になったため、令和3年度に八千代市で実施予定。	八千代市で実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で中止となった。令和4年度は船橋市の予定		隔年で八千代市と交代に実施。令和3年度は八千代市で実施予定であったが、イベントが延期になった。令和4年度に船橋市で実施予定。	継続	令和4年度については船橋市が担当となるため、船橋地域人権啓発ネットワーク協議会と連携し、人権意識の啓発を図っていく。
1	14	1	男女共同参画講演会	市民協働課	公民館等を会場とし、性別や年齢にかかわらず参加しやすいように土曜日等に啓発イベントとしての講演会を実施する。	「その育児家事、時給5,000円です！」 講師：瀬地山 角(東京大学教授) 参加者：54名	『きれいごと』をあきらめない コロナに負けない家庭と社会のつくりかた 講師：小島 慶子(タレント/エッセイスト) 参加者：79名	A	コロナ禍で80名定員に下げた実施となったなかで、定員を超える応募があり、当日も79名の方にご参加いただけたため、評価をAとした。	継続	引き続き、著名人を招き、男女共同参画に関連した講演会を市民を対象に行う。
1	14	2	情報誌 f の発行	市民協働課	啓発情報誌を作成。多くの人に対して男女共同参画意識の浸透が図られるような紙面づくりを心掛けている。平成7年から実施。	第39号 13,000部発行 男女共同参画センターなど市内公共施設に配架、他関係団体等にも配布 広報課企画展「3.11東日本大震災から10年～記憶を未来へ～」での配架	第40号 20,000部発行 男女共同参画センターなど市内公共施設に配架、他関係団体等に配布。今回から市内中学校の全生徒に配布。	A	今回から市内中学校の全生徒に配布することとしたことにより、若年層も含めた啓発ができたため、評価はAとした。	継続	情報誌を通じて、男女共同参画に関連する様々な情報を提供し、啓発を進めていく。
1	14	3	講座開催	市民協働課	男女共同参画をテーマとした講座を開催する。	8講座 236名	28講座 377名	A	昨年よりも多く学習機会を提供し、参加者を増やすことができたことで意識啓発できたため、評価はAとした。	継続	今後もテーマに合わせて、参加しやすい開催場所や時期、時間を検討しながら講座を進めていく。
1	14	4	男女共同参画写真・標語コンクール	市民協働課	・広く市民を対象とした、応募型の啓発事業を実施。男女共同参画について考えてもらおうきっかけとする。 ・平成13年度から標語コンクール、平成21年度から写真コンクールを開催している。	応募数 ・標語 1,997点 (写真コンクールは令和元年度から実施せず)	応募数 ・標語 136点	B	夏休みの課題にしていだけるよう例年夏休みシーズン前に募集開始するなど工夫をしている。大幅に応募数が減少したが、令和元年度(56点)に比べれば応募があったため、評価をBとした。	継続	毎年継続して夏休みの課題に選んでいただくことは難しいのかもしれないが、協力が得られるように、校長会での伝え方を検討するなど、工夫していく。
1	14	5	男女共同参画フェスティバル	市民協働課	男女共同参画に関する活動をしている団体によるワークショップや運営委員による講座などの開催。	参加 7団体 来場者 180名	参加 5団体 来場者 218名	B	開催1週間前に蔓延防止等重点措置が発令されたことで中止する団体があり、企画が減るなどのトラブルもあったなかで、感染防止対策を取りながら、昨年度よりも多くの方に来場いただき、男女共同参画について考えていただく機会となったことから、Bとした。	継続	参加団体の発表時間の設定や参加募集のコマ数を検討し、コロナ禍であっても団体が満足した企画を行えるよう工夫していく。また、来場者が増えるよう、男女共同参画センター等を活用した事前展示・告知、チラシ等の周知を工夫していく。
1	14	6	男女共同参画社会の実現を目的とした公民館事業	公民館	平成11年に男女共同参画社会基本法が施行され、男女共同参画社会形成に向けた政策が打ち出された。公民館においても男女共同参画の趣旨を踏まえた事業を実施する。	新型コロナウイルスの影響により実施なし	実施なし	D	実施しておらず評価できないためDとした。	継続	男女共同参画の重要性の理解を深めるための講座を次年度以降は実施していく。
2	1	1	星を見る会、特別放映、出張星空教室(再掲)	総合教育センター	初歩的な天文に関する講座や天体観測を行う天文教室(平成4年から)や星を見る会(昭和62年から)、プラネタリウム放映(平成4年から)にあわせて音楽やお話の集いを行う特別放映などを行う。	星を見る会10回(180名の申込、27名の参加、9回が中止) 特別放映 1回(37名の参加) 出張星空教室0回(新型コロナウイルスのため中止)	星を見る会10回(2,148名の申込、354名の参加、1回が中止) 特別放映 1回(20名の参加) 出張星空教室0回(新型コロナウイルスのため中止)	B	コロナ禍で未実施の回があったが、可能な限り実施したので評価をBとした。	縮小	「出張星空教室」については、新型コロナウイルス感染症の感染防止、また教職員の働き方改革の観点から希望する学校が減少している。そのため、「出張星空教室」を縮小する。
2	1	2	科学の広場(再掲)	総合教育センター	身近な科学に関する楽しい実験や工作を行っている。平成5年から実施	実施することができなかった。	実施することができなかった。	D	実施しておらず評価できないためDとした。	継続	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、継続していきたい。
2	2	1	家庭教育セミナー(再掲)	社会教育課 ・公民館	PTAや成人教育団体を主体として、家庭教育に関すること、親子のふれあい・世代間交流に関すること、地域での子供の生活体験・生活体験学習に関することなどについて学習する。	開設団体数7団体 (PTA4、本館3) 実施回数7回 延参加者数316人	開設団体数31団体 (PTA15、本館16) 実施回数55回 延参加者数1,730人	B	新型コロナウイルス感染症の影響により休館期間が多かった令和2年度と比較して、実施公民館数、延参加者数ともに前年から増加した。なお、開催時間が長く子どもの集中力がもたないなどの意見もあり評価を「B」とした。	継続	対象者が求める課題にマッチした内容の実施や開催時間等講座の構成等について検討していく。
2	2	2	就学時健診等における子育て学習(再掲)	社会教育課 ・公民館	子育てやしつけなどの家庭教育のあり方を見つめ直し、家庭の教育力を高めるために子育て講座を実施する。	実施小学校46校 延参加者数4,326人	実施小学校46校 延参加者数4,195人	B	参加した保護者に対して行ったアンケートでは、「とても参考になった」「やや参考になった」が96.7%となり、満足度の高い学習機会を提供することができたが、新型コロナウイルス感染症の影響により9校が未実施となったためB評価とした。	継続	アンケート結果の中には、考え方が古いなどの意見が見受けられたが、ほとんどの保護者からは内容等について高評価をいただいております。今後もアンケート結果を踏まえて内容を精査し継続していく。
2	3	1	学習サポーター派遣事業	指導課	平成18年度から、学力の向上を目的として、大学生等を市内全小学校に派遣している。	配置校数：小学校31校 配置人数：43名	配置校数：全小学校55校 配置人数：180人	A	全小学校55校に180名の学習サポーターを配置することができた。また、学校アンケートでは、「サポーターの個別支援により、個々の児童の学習理解が深まり効果的であった」との回答を得ることができたため評価をAとした。	継続	提携大学の担当に働きかけ連携を取りながら、できるだけ多くのサポーターを派遣できるよう努める。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
2	3	2	スクールガード制度	保健体育課 児童・生徒防犯安全対策室	登下校の時間帯（7時～8時前後、14時～16時前後）を中心に、通学路や近くの公園などをパトロールしながら、子供たちを見守るボランティア活動。	・児童生徒に係わる不審者情報 55件 ・スクールガード連絡調整会議 1回 ・279団体 4,648人	・児童生徒に係わる不審者情報 55件 ・スクールガード連絡調整会議 33回 ・スクールガード登録 265団体 3,830人	B	令和2年度に引き続き、スクールガードの登録者数が減少している。また、スクールガード連絡調整会議も新型コロナウイルス感染症対策のため開催回数が少なかった。そのため、評価をBとした。	継続	スクールガード登録者数が減少しているため、令和4年度は登録者を増やす取組を行う。
2	3	3	学校支援地域本部事業	社会教育課	地域の人がボランティアとして、小・中学校の環境整備や学校行事等、様々な支援を行い、地域全体で学校を支援していく体制づくりを、中学校区ごとに推進する。	学校支援地域本部設置中学校区数:17 (実施中学校:17校) (実施小学校:34校)	学校支援地域本部設置中学校区数:20 (実施中学校:20校) (実施小学校:43校)	A	全中学校区での本部設置を目指しており、令和3年度は新規開設の2中学校区を含めた20中学校区に設置した。登下校安全指導や環境整備活動など地域で学校を支援する体制ができていたため、評価をAとした。	継続	市内の全中学校区が参加することを目指し、今後も学校との連携を進めていく。
2	3	4	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方研究協力者会議	総合教育センター	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るために、地域ごとの保幼小連携への取組を行う。	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方研究協力者会議 3回/年は、書面会議として行い、専門的な立場の方や現場の代表者からの意見をあつめた。保幼小合同研修会(管理職向け・一般職向け)は実施することができなかった。	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方研究協力者会議については、年3回開催のところ、3回目のみ書面会議となったが、それ以外は対面で専門的な立場の方や現場の代表者からの意見を集めた。保幼小合同研修会(管理職・一般職)は、実施することができた。	A	協力者会議の3回目が書面での開催となったが、それ以外の会議・研修は予定通り実施できたので評価をAとした。	継続	今後も継続し、保幼小連携をさらに進めていきたい。
2	4	1	子育てサロン事業補助事業 ・ミニデイサービス補助事業	地域福祉課	地区社会福祉協議会が実施する子育てサロン、ミニデイサービス事業に、船橋市社会福祉協議会を通じて運営費の一部を補助する。 《子育てサロン》 地域で孤立しがちな子育て中の親を対象に、育児相談や仲間づくりを支援する。ボランティアとの世代間交流も図られる。 《ミニデイサービス》 閉じこもりがちな虚弱高齢者を対象とし、昼食をはさんでゲームや体操をすることで、地域の人たちとの交流・介護予防を図る。小中学生を招いた交流プログラムを導入している地区も増えている。	子育てサロン事業実施回数 62回 ※内訳 集まるとの開催12回、郵送による実施 50回 ミニデイサービス事業実施回数 224回 ※内訳 集まるとの開催 26回、郵送による実施198回	子育てサロン事業実施回数 201回 ※内訳 集まるとの開催135回、郵送による実施 66回 ミニデイサービス事業実施回数 287回 ※内訳 集まるとの開催 48回、郵送による実施239回	B	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、集まるとの通常開催が困難であり、実施回数が例年に比べ大幅に減少した。しかしながら、実施できない期間についてはワークキットや乳幼児向けの塗り絵、感染対策に関するチラシの送付などを行い、利用者が孤立しないよう努めたため、評価をBとした	継続	令和4年度においても通常開催が困難となるのが想定されるが、開催までの間については、引き続き郵送等による活動を継続する。
2	4	2	ふなばしハッピーサタデー事業 (再掲)	青少年課 ・公民館	原則毎月第3土曜日を「ふなばしハッピーサタデー」とし、公民館が主体となり、町会・自治会や学校及び地域の青少年団体、児童ホーム等と連携を図りながら、各公民館において、スポーツ活動、文化活動、自然体験、子どもまつり等子供が楽しく参加できる事業を行う。 平成17年度から実施。	会場:20公民館 延べ参加者数:598人 事業数:29回	会場:26公民館 延べ参加者数:5,202人 事業数:198回	A	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めながら事業を実施し、令和2年度実績から参加者数、事業数ともに大幅に増加したことに加え、事業目標である「スポーツ・文化活動・自然体験・子どもまつり等子どもが楽しく参加できる事業を行う事業を行う」についても概ね達成できたため、評価をAとした。	継続	新型コロナウイルス感染症対策等に取り組みながら、事業の実施に向け公民館等と検討・実施していく。
2	5	1	総合防災訓練	危機管理課	災害発生後の実際の行動について、市民や防災関係機関が参加する総合的な防災訓練を実施する。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、住民参加型ではなく避難所従事職員等による新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設・運営訓練を各小中学校等で行うとともに、船橋小学校では間仕切りやマンホールトイレの設置などの特色のある訓練を実施した。	全ての小中学校及び特別支援学校高根台校舎において、個別の「避難所運営アクションシート」を作成し、住民参加型として新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所開設・運営訓練を実施した。 また、資機材取り扱い訓練として紙管パーティションの設置訓練を実施した。	A	全ての小中学校及び特別支援学校高根台校舎において、個別の「避難所運営アクションシート」を作成し、新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所開設・運営方法や避難所運営委員会について、避難所参集職員・住民・学校職員と確認することができたため、評価をAとした。	継続	新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、住民参加型の避難所運営・開設訓練実施を目指す。
2	5	2	小・中学校等備蓄整備事業	危機管理課	・災害時の避難所となっている小中学校の余裕教室等を活用した防災備蓄倉庫の整備を図る事業。平成23年度に全小中学校への整備が終了した。今後も避難所指定に伴い、災害時用備蓄品を配備する。 ・過去災害における避難所生活での課題を考慮し、新たに災害時用備蓄品の拡充を行っていく。 ・飲料水や食料等の更新を行っていく。	・期限切れ間近の備蓄食料等を更新(各避難施設) ・発電機の増強 ・災害用マット及び携帯トイレの増強 ・新型コロナウイルス感染症対策関連備品等の配備(各消耗品、間仕切り、蓄電池)	・各避難施設の期限切れ間近の備蓄品等を更新 ・防災アセスメント調査結果による備蓄目標の増加に伴う備蓄食料等の拡充 ・各避難施設への液体ミルク、液体ハミガキ新規配備 ・塚田南小学校(新設)の備蓄品配備	A	期限切れ間近の備蓄品等を更新し、備蓄目標の増加に伴う備蓄食料等を拡充するとともに、各避難施設への液体ミルク、液体ハミガキを新規配備することができたため、評価をAとした。	継続	継続して、期限が切れる備蓄品の更新と、防災アセスメント調査により増加した備蓄目標を目指した備蓄の増強を行う。
2	5	3	中学生向け防災学習	危機管理課	中学生が「命の尊さ」や「災害時自分や周りの人の命を守る」ために何ができるかを学習し、自らが応急救護など災害時の対処法などを身につける。 平成17年度から実施	3つの中学校を対象に、防災講話や各学校が計画した学習を実施した。 前原中学校1年生(289人) 高根台中学校1年生(127人) 小室中学校1～3年生(116人)	3つの中学校を対象に、防災講話を実施した。 飯山満中学校 1年生(110人) 葛飾中学校 1年生(364人) 八木が谷中学校 1年生(216人)	A	防災講話の実施により、防災意識の向上とともに地域との連携の大切さを伝えることができたため、評価をAとした。	未定	平成17年度から実施し、令和4年度で全中学校の実施が終了するため、今後方向性を検討していく。
2	5	4	放課後ルーム事業	地域子育て支援課	保護者の就労等により、放課後に家庭で子供だけになってしまっ小学生に、遊びと生活の場を用意する。 そのために、施設の整備に努めるとともに、各学校と連携しながら運営の充実を図る。	54カ所(分割運営を含め101施設) 入所児童5,617人(令和2年4月)	55カ所(分割運営を含め104施設) 入所児童5,575人(令和3年4月)	A	新型コロナウイルス感染症対策のもと、緊急事態宣言中も、運営の充実を図ったことから、評価をAとした。	継続	新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら事業を継続していく。
2	5	5	AEDの維持管理	健康政策課	心停止等の緊急時に利用できるようにするために、全校設置されたAEDの点検等の維持管理を行う。	・各校にAED点検者を配置し、安全点検簿とおして、日々点検、月点検、都度点検による適切な維持管理が出来る(小学校54校、中学校27校、特支2校、計83校) ・除細動パッド等の消耗品を使用した際は、予備パッドを装着するなどし、再度使用可能な状態に戻すとともに、消耗品の補充を行った。	・各校にAED点検者を配置し、安全点検簿とおして、日々点検、月点検、都度点検による適切な維持管理が出来る(小学校55校、中学校27校、特支2校、計84校) ・除細動パッド等の消耗品を使用した際は、予備パッドを装着するなどし、再度使用可能な状態に戻すとともに、消耗品の補充を行った。	A	定期的な点検や消耗品の交換等により、AEDを適切に管理できたため、評価をAとした。	継続	適切な場所に設置を行うほか、維持管理のしやすい配置、また、今後のコストを考えた契約などを行い、今後も維持管理を行っていく。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
2	5	6	学校施設開放事業	生涯スポーツ課	市民のスポーツの場として、学校運営に支障のない範囲で学校のグラウンド、体育館を開放する。	小学校 運動場：6,708回 209,977人 体育館：6,138回 112,358人 プール：開放なし 中学校 運動場：292回 4,018人 体育館：664回 9,043人 夜間照明灯：83回 1,546人 特別支援学校 運動場：27回 686人 体育館：0回 0人 プール：開放なし 高等学校 運動場：246回 4,895人	小学校 運動場：8,231回 248,613人 体育館：10,919回 189,354人 プール：開放なし 中学校 運動場：470回 8,317人 体育館：2,978回 40,094人 夜間照明灯：18回 216人 特別支援学校 運動場：26回 328人 体育館：99回 1,014人 プール：開放なし 高等学校 運動場：261回 5,404人	A	利用を停止した時期もあり、再開後も一部利用制限を設けての活動となったが、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルにより安全に活動できるよう支援した。利用方法やマナーについての苦情については、速やかに学校及び運営委員会会長に連絡し、状況の把握と各団体への周知・指導を行った。コロナ禍以前の実績値には至らないが、地域住民のスポーツ活動の拠点を確保することができたことから評価をAとした。	継続	新型コロナウイルス感染症対策をしながら、安全に安心して活動できるよう指導していく。学校開放の利用にあたってのルールの順守やマナーの徹底等について運営委員会と連携し利用団体へ周知・指導を行う。全体的に施設の老朽化が見られることから、関係部署との連携を図る。
2	5	7	総合型地域スポーツクラブ(再掲)	生涯スポーツ課	地域のスポーツ振興を目的とし、総合型地域スポーツクラブの設立を支援する。	新たなクラブ設立の相談はなく、クラブ数は4クラブと昨年度と変わらなかった。コロナ禍における活動について、活動場所の確保等の相談があり、相談支援を行った。	新たなクラブ設立の相談はなく、クラブ数は4クラブと昨年度と変わらなかった。令和3年度は船橋市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を開催し、各クラブの現状や課題を知ることができた。また、新型コロナウイルス感染症に関する、運動部活動の地域移行に関する、令和4年度から開始した総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度に関することについての情報収集や情報提供を実施した。	B	新たなクラブの設立に至らないことから、達成度はやや低いが、現存するクラブが活動を継続するための支援を実施できたことから、評価をBとした。	継続	新たなクラブの設立の支援を継続すると共に、新型コロナウイルス感染症に関する、運動部活動の地域移行に関する、令和4年度から開始した総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度に関することについての情報収集や情報提供を行いクラブの運営を支援します。
2	6	1	スクールロイヤー活用事業(スクールロイヤーによる予防教育)	指導課	学校問題に精通している弁護士が所属する弁護士事務所と業務委託契約し、主に以下の業務を行う。 ①児童生徒を対象とした、いじめやSNSの危険等、問題の法的側面からの予防教育 ②教育活動や学校事故に対する教職員からの相談等、学校からの法的相談 ③教育活動や学校事故、教育委員会の事業に対する、教育委員会からの法的相談 ④調査、研究等に対する検証、分析、助言等	相談実績：37件 出張授業：12校14回実施 教職員向け研修講師：1回	相談実績：30件 出張授業：24校26回実施 教職員向け研修講師3回 地区連絡会(中学校生徒指導関係会議)への参加	A	学校や教育委員会からの相談に対して、迅速にスクールロイヤーとの相談に繋ぎ、的確な法的助言を受けることができた。また、出張授業は予定より多くの学校で実施することができ、いじめやSNSの使い方等の予防教育に大変有益であった。また、教職員向け研修を3回実施し、法的観点から講話をいただいた。地区連絡会(中学校生徒指導関係会議)にも参加し、現状の把握及び助言をいただいた。そのため評価をAとした。	継続	令和4年度も新任校長研修会で事業の周知を図るとともに、学校から相談しやすい体制づくりに努めていきたい。また、出張授業については学校からの希望が多くなってきているので、オンラインを利用して同時に複数の学校への授業について、試験的に導入をしていきたい。今後も千葉県弁護士会京葉支部の事務局とも連携を図り、事業のより良い活用について研究していきたい。
2	7	1	大学公開講座	社会教育課	大学等が開催する催しを、生涯学習の情報を掲載している「生涯学習ガイドブック～楽しく学ぼうふなばし～」に掲載することで、広く周知する。	・楽しく学ぼうふなばし(年2回発行、各700冊)に計1講座を掲載 ※本来は年3回発行しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、1回発行中止となった。 ・同内容をホームページにも掲載 ※初回号はホームページのみで冊子の発行はしなかった。	・楽しく学ぼうふなばし(年3回発行、第64号・第65号は700冊、第66号は550冊)を発行。 ・同内容をホームページにも掲載 ※大学公開講座の掲載はなし。	D	令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大学等の公開講座も実施されなかったり、オンライン開催となったりしたためか、楽しく学ぼうふなばしへの掲載がなかったことから、評価をDとした。	継続	今後も講演会・学習会や市等が行っている事業を幅広く掲載し、多くの市民の生涯学習の推進を図っていく。
2	7	2	後援・共催・協賛事業	社会教育課	地域に開かれた大学等が行う催しに対し、市教育委員会として、後援等を行う。	後援1件(すべて大学) ・日本大学理工学部100周年記念「日大理工のちからXIII 木村秀政と平山善吉」	共催5件、後援13件、協賛5件	A	昨年と比較し、件数が大幅に増え、講座やイベントの後援を通して、市教育委員会と市民や地域団体との繋がりを深めることができたので、評価をAとした。	継続	今後も、社会教育に関わる講座やイベントの後援等を行うことで、生涯学習の推進を図っていく。
2	7	3	東部地区5館合同事業(東部、三田、薬円台、習志野台、飯山満)	公民館	学生を対象に呼びかけ事業の企画から運営までを公民館職員と共に行う。	令和2年度で、新しい取り組みとして計画していたが、新型コロナウイルスの影響により実施に至らなかった。	会場：東部公民館 参加者数：62人	A	SDGsに関連した講演及び「携帯電話の分解」の2部構成で事業を実施。環境にまつわる話をお話を交えて実施し、また携帯電話の分解には子どもたちも興味津々で環境問題への理解が深まった。参加した親子からは「また参加したい」などの声が多く聞かれた。	継続	ブロック内で合同事業を実施することで職員間の連携や単独ではできない事業を実施でき、幅広い地域の市民の交流の場となっていることから、今後も引き続き様々な課題についての理解を深めるような事業を実施していく。
3	1	1	「楽しく学ぼうふなばし」の発行	社会教育課	自主的に「何かを学びたい」「体験したい」という要求に応えることを目的として、船橋市等が行っている市民を対象とした生涯学習事業をまとめた冊子を年3回発行し、ホームページにも掲載している。	・年2回発行 各700冊 ※本来は年3回発行しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、1回発行中止となった。 ・同内容をホームページにも掲載 ※初回号はホームページのみで冊子の発行はしなかった。	・楽しく学ぼうふなばし(年3回発行、第64号・第65号は700冊、第66号は550冊)を発行。 ・同内容をホームページにも掲載	A	市民が参加できる講座等を幅広く紹介することで、生涯学習の推進を図ることができた。また、第66号からはペーパーレス化を進め、インターネットによる周知を促進した。	継続	今後も講演会・学習会や市等が行っている事業を幅広く掲載し、多くの市民の生涯学習の推進を図っていく。
3	1	2	生涯学習施設予約管理システムの運用	社会教育課	・公民館、体育施設、男女共同参画センター等の施設の予約管理をシステム化し、効率的な管理を行っている。 ・市民の方がインターネット上で施設予約や空き状況の照会等を一元的に行うことができる。	オンライン利用件数108,937件	オンライン利用件数141,396件	A	昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン利用件数が減少していたが、今年度より増加傾向となった。また、利便性やセキュリティ確保に努めたことか、評価をAとした。	継続	引き続きシステムを運用していく。
3	1	3	図書館システム運営事業	西図書館	インターネットによる図書の蔵書検索及び予約等、図書館システムの充実を図る。	システム更新を行った。	システム更新後、大きなトラブルが無く安定していた。	A	安定した運用ができたことから評価をAとした。	継続	引き続き安定した運用に努める。
3	1	4	公民館図書室のオンライン化	社会教育課・西図書館・公民館	図書館サービスの充実のため、図書館と公民館図書室等のオンライン化を進めている。	・新たに大穴小学校市民図書室のオンライン化を実施し、令和3年3月17日に開室した。 ・八木が谷・飯山満公民館図書コーナー、松が丘公民館図書室のオンライン化に向けた予算要求を行った。	新たに八木が谷・飯山満公民館図書コーナー、松が丘公民館図書室をオンライン化し、令和3年9月1日に八木が谷・飯山満公民館図書コーナー、12月1日に松が丘公民館図書室を開室した。	A	予定していた八木が谷・飯山満公民館図書コーナー、松が丘公民館図書室をオンライン化できたことから評価をAとした。	継続	以降は既存施設の環境整備を中心に進めていく。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
3	2	1	市広報への記事の掲載	広報課	生涯学習の情報提供に際し広報紙(紙媒体)と、それ以外の多様な情報媒体の活用を図る。	広報紙折込(1号あたり)149,265部 ポスティング(1号あたり平均)16,165部 CATV 1日2回(1回15分)を一週間単位として41週放送(計730回放送)	広報紙折込(1号あたり)138,833部 ポスティング(1号あたり平均)18,768部 CATV 毎日1回(1回15分)、7月15日～31日・8月13日～15日・12月15日～1月14日は1日2回、計416回放送	A	公民館等の催しなど、生涯学習の情報提供について、十分に紙面に掲載することができた。	継続	今後もさらに読みやすい紙面づくりに努めていくとともに、引き続き生涯学習の情報を、広報紙等に掲載していく。
3	2	2	市広報、館報、チラシ及びホームページ等による情報提供	公民館	市広報による事業案内及び館報やチラシによる事業案内や地域情報の提供を行う。また、ホームページにより公民館施設利用案内、サークル情報や事業案内などの迅速な情報の提供を行う事ができ、多様な方法により学習情報の提供を行うことができる。	各公民館に於いて、館報及びチラシ・ポスター等の作成をしたが、コロナ禍に於ける休館対応のため、一部分のみの対応となった。	館報を発行した館 21館 発行した回数 53回 フェイスブックを利用した館 23館	A	紙面に限りがあるため、全ての情報を広報には載せることはできないので、館内チラシやホームページ、館報などにより情報提供を行った。また、令和3年度から公民館のフェイスブックを開設しSNSの活用により更に情報提供の拡充を図ることができた。	継続	新たな情報発信のコンテンツとして開始したフェイスブックを活用し、事業以外に各公民館の特色などを発信し、利用者向上につなげていく。
3	2	3	貴重資料のデジタル化及び公開事業	西図書館	船橋市西図書館所蔵の絵画(主に錦絵・地図・絵図などの貴重資料のデジタル化により資料の公開及びその活用を図る。図書館が有する資料の公開により、市民の閲覧・調査・研究に応えることはもちろん、生活をより豊かに有意義なものにすることを目的とする。	総アクセス数：985,361(2020.4～2021.3)	総アクセス数：879,802(2021.4～2022.3)	A	総アクセス数は昨年度より少なかったが、安定して毎月7万前後のアクセスがあった。また、市内のデジタルサイネージで周知を行ったことから評価をAとした。	継続	システムバージョンアップにより追加される機能を使い、書誌事項の修正や解説の充実を行う。
3	2	4	ふなばし生涯学習チャンネル	社会教育課	船橋の生涯学習について、市民にわかりやすく、身近に感じてもらえるよう、市職員が作成したオリジナル動画を配信する。	配信タイトル：61本 総視聴回数：43,964回	配信タイトル：67本 総視聴回数：42,804回	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、どこでも楽しく学べる新たな学習支援として、多くの市民に学びを届けることができた。	継続	新しい学習機会の提供方法として、新型コロナウイルスの影響により外出等が困難であっても市民が学び続けることができるよう、引き続き動画配信を行っていく。
3	3	1	ホームページ運用	広報課	・ライフステージに応じた構成による見やすさ、アクセシビリティを求める。 ・子どもホームページも含め、ホームページをリニューアルし、高齢者や障害者を含む誰もが利用できるサイトを構築。また、各世代の利用が図れるよう、各ページを調整しながら運用している。 ・ホームページ運用の一環として平成23年11月より、Twitterの運用を行っている。 ・平成25年度に情報発信の強化としてFacebook及びYoutubeを開設し、幅広い世代への情報発信を行う。	ホームページアクセス数:6,518,821件(トップページ) 子どもホームページアクセス数:356,178件	ホームページアクセス数:5,151,956件(トップページ) 子どもホームページアクセス数:367,353件	A	安定した運用ができた。また、幅広い世代への情報発信のツールとしてSNS(Facebook、Youtube等)を積極的に活用した。	継続	引き続き幅広い世代への情報発信のツールとして、ホームページやSNS(Facebook、Youtube等)を積極的に活用していく。
3	3	2	子育て情報誌発行(再掲)	地域子育て支援課	子育てに関する市の各種サービスや相談窓口、幼稚園・保育園情報、医療機関情報等をまとめた情報誌「子育てナビゲーション」を発行し、母子健康手帳交付時に配布するほか、希望する市民に配布し、子育てに関する幅広い情報提供を行う事業。	36,000部発行 ※令和2年度から隔年発行となり、令和3年度は発行しない。	36,000部発行(2カ年分) ※令和2年度から隔年発行となり、令和3年度は発行しない。	A	地域の子育て支援情報やサービスの最新情報を充実するとともに、見やすくわかりやすい記事とした。また、配布場所を増やすなど、利便性の向上に努めたため、評価をAとした。	継続	子育て家庭に求められ、より役立つ内容にするために掲載記事について検討する。
3	3	3	図書館ホームページの充実	西図書館	図書館ホームページの充実を図る。	図書館ホームページをリニューアルし、以下の機能を追加した ・パスワードの新規作成・再発行 ・ホームページ上からの図書のリクエスト ・読書記録の機能 ・予約の繰下期間の設定	講座・イベント等の情報を周知するとともに、既存のページについても精査し、必要に応じて掲載内容の更新を行った。	A	利用者にとってより使いやすいホームページになるように情報を更新し続けたことから評価をAとした。	継続	引き続き情報の更新に努めていく。
3	4	1	学習相談体制の整備・充実	公民館	各公民館において市民からの学習相談に個別に対応している。	公民館が休館となっていた期間が長ったことから、例年より少ない状況であったが相談体制や情報提供は出来ていた。	市民からの学習相談については集計していないが、各公民館において対応している。	A	市民からの学習相談はその都度各公民館で対応しており、評価をAとした。	継続	各公民館では引き続き情報提供や相談に対応するとともに、市民からの要望のある学習スペースとしての空き部屋利用について柔軟な対応を検討していく。
3	4	2	学習相談体制の整備・充実	西図書館	レファレンスサービスの充実	・レファレンス件数：24,045件(4館合計) ・新規パスファインダーの作成	・レファレンス件数：38,113件(4館合計) ・新規パスファインダーの作成 ・レファレンス協同データベースの登録	A	新規パスファインダーを作成し、一部は図書館ホームページで公開することができた。また、レファレンス協同データベースの登録を継続して行い、全体に公開できたことから評価をAとした。	継続	今後も、パスファインダーの充実を図る。また、レファレンス協同データベースへの登録数を増やし、レファレンス情報の共有と研鑽に努めていく。
3	5	1	公民館建替事業	社会教育課	市民の多種多様なニーズやライフステージに応じたさまざまな学習機会や学習情報の提供など、生涯学習推進体制の整備を推進するため、老朽化等の原因がある公民館の建て替えを進める。	東部公民館について行財政改革推進プランに基づき関係課と着手時期等について協議を行った。	政策会議にて『「建替事業」から「保全計画に基づく大規模改修その他施設の有効利用に必要な改修」に変更の上、事業実施。』という方向性が決定した。	D	当初予定していた公民館建替事業から大規模改修その他施設の有効利用に必要な改修になったため、本事業は廃止する。	廃止	大規模改修その他施設の有効利用に必要な改修に向けて、設計業務を進める。
3	6	1	公民館図書室のオンライン化(再掲)	社会教育課 西図書館・公民館	図書館サービスの充実のため、図書館と公民館図書室等のオンライン化を進めている。	・新たに大穴小学校市民図書室のオンライン化を実施し、令和3年3月17日に開室した。 ・八木が谷・飯山満公民館図書コーナー、松が丘公民館図書室のオンライン化に向けた予算要求を行った。	新たに八木が谷・飯山満公民館図書コーナー、松が丘公民館図書室をオンライン化し、令和3年9月1日に八木が谷・飯山満公民館図書コーナーは開室し、12月1日に松が丘公民館図書室は開室した。	A	予定していた八木が谷・飯山満公民館図書コーナー、松が丘公民館図書室をオンライン化できたことから評価をAとした。	継続	以降は既存施設的环境整備を中心に進めていく。
3	7	1	男女共同参画センターの充実	市民協働課	センター蔵書の市内図書館・公民館図書室での返却	センター蔵書の市内図書館・公民館図書室で返却を受け付けた。	・新着図書のお知らせをホームページに掲載。 ・DVD鑑賞会 4回 ・ゆるっとつながる女性のための寄り添いサロン事業 4回	A	DVD鑑賞会やサロン事業を実施したこと、交流コーナーを男女共同参画センター登録団体の企画講座等でも利用できるような利便性を向上させたことにより機能の充実ができたため、評価をAとした。	継続	今後も、駅から近い利便性を生かし、参加しやすい事業の実施等を行っていく。
3	7	2	保健センターの管理運営	保健センター	市民が利用しやすい相談窓口や学習機会を整備する。	・利用者数 中央保健センター 20,121人 東部保健センター 16,267人 北部保健センター 4,059人 西部保健センター 6,941人	・利用者数 中央保健センター 25,453人 東部保健センター 22,194人 北部保健センター 7,116人 西部保健センター 12,107人	B	新型コロナウイルスの影響により、保健センターの保健師がコロナ応援対応となり、法定健診優先とし実施したが他については保健センター事業(教育・相談事業)の中止・縮小を図った。事業を行う人員が削減されているなかでも、前年度より利用者数が増加したが、保健センターのポテンシャルはまだあると評価しBとした。	継続	今後も現在の取り組みを継続していく。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
3	7	3	老人憩の家管理運営	高齢者福祉課	高齢者の相互の親睦を図り、教養の向上、レクリエーション等に利用できるような憩の場を提供している。	35施設（公設22施設、民間借上げ13施設） 利用人数 0人	35施設（公設22施設、民間借上げ13施設） 利用人数 5,947人	B	令和3年度は11月から感染症対策による入場制限を設けて開館。 大幅に利用人数が減少。	継続	引き続き、感染症対策を実施しつつ地域の高齢者や老人クラブの活動の場を提供する。
3	7	4	老人福祉センター	高齢者福祉課	60歳以上の高齢者に対し相談、健康増進、レクリエーションの場を提供している。	5施設 延利用者数 50,481人 109クラブ会員 3,060人	5施設 延利用者数 146,181人 108クラブ会員 2,279人	B	令和3年度は感染症対策による施設の一部利用制限を行いながらほぼ年間を通して開館したため利用者数が微増したが、定員数制限によりクラブ会員が減少したため、評価をBとした。	継続	引き続き、60歳以上の高齢者に対し相談、健康増進、レクリエーションの場を提供していく。
3	7	5	児童ホーム事業	地域子育て支援課	公民館と連携を進め児童健全育成・子育て支援事業の充実を図る。	公民館を利用して巡回児童ホームを4回（乳幼児2回 小学生2回）実施した。 中央公民館…2回（乳幼児1回 小学生1回） 丸山公民館…2回（乳幼児1回 小学生1回） ※この他、複合施設・近隣の公民館と連携を図り、様々な事業を展開している。	公民館を利用して巡回児童ホームを48回（乳幼児27回 小学生21回）実施した。 中央公民館…8回（乳幼児5回 小学生3回） 海老が作公民館…8回（乳幼児5回 小学生3回） 北部公民館…7回（乳幼児3回 小学生4回） 丸山公民館…13回（乳幼児7回 小学生6回） 二和公民館…12回（乳幼児7回 小学生5回） ※この他、複合施設・近隣の公民館と連携を図り、様々な事業を展開している。	A	新型コロナウイルス感染症の影響による事業休止期間があったが、昨年度に比べて休止期間が短く安定して事業を実施できた結果、巡回児童ホームの実施回数が従来の回数に戻ったため、評価をAとした。	継続	新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら事業を継続していく。
3	7	6	クリーン船橋530の日、船橋をきれいにする日の開催	クリーン推進課	市民参加による清掃活動を行い、ごみのない住み良い地域「環境にやさしい美しい街づくり」の啓発活動とする。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止した。 実績はなし。	（クリーン船橋530の日） 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、関係団体と協議のうえ、メイン会場でのせしモニーは実施せず、自宅から各小学校へのごみ回収のみ行うかたちで開催した。 参加者人数：約5,380人 （船橋をきれいにする日） 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、関係団体と協議のうえ、メイン会場でのせしモニーは出席人数制限を設けて開催した。また、メイン会場の収集コースを1コース増やし、計6コースとした。 参加者人数：約4,420人	B	昨年度は両事業とも新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかったが、今年度は感染対策を呼び掛けたうえで、両事業とも開催することができた。 しかし、感染状況が終息したわけではないため、参加者は例年より減少しており、回収されるごみ量も減少していた。	継続	ごみのない住みよい街づくりのために、より多くの市民が清掃活動へ積極的に参加できるよう、感染対策も含め、町会・自治会の協力を得てチラシを回覧するとともに、多様な媒体を活用し、広く事業の周知を図る。
3	7	7	リサちゃんだよりの発行	クリーン推進課	市民に対してごみの現状とごみ減量、リサイクルの必要性の意識を高めることを目的として発行している。	発行部数 290,000部	発行部数 290,000部	A	紙面の構成を見直し、より多くの市民の方々がごみの排出方法やごみに関する情報を周知できるパンフレットを作成することができた。また、リサちゃんだよりの各記事にSDGsマークを掲載した。	継続	今後も市民からの問い合わせなどを参考に紙面の構成等を見直し、ごみの減量・資源化の啓発を図っていく。
3	7	8	西浦資源リサイクル施設	資源循環課	市民や小学校児童に西浦資源リサイクル施設を見学してもらい、ごみ減量の啓発を図っている。	4団体 15名(内、行政視察1回 4名)	1団体 2名	B	・コロナ禍の影響で見学受け入れ中止や人数制限の対応を行った影響もあり来場者が少なかった。 上記を理由として、評価をBとした。	継続	ごみ減量や資源化に関する啓発を図るため、ホームページ等を活用して見学者の増加を図る。 また、見学受け入れ中止の場合の代替案として、施設見学の様子を撮影したDVDの作成を検討する。
3	7	9	南部清掃工場見学	資源循環課	市民に清掃工場を見学してもらい、ごみ減量の啓発を図っている。	6団体 31名(内、行政視察3回 18名)	14団体 223名	B	・コロナ禍の影響で見学受け入れ中止や人数制限の対応を行った影響もあり来場者が少なかった。 上記を理由として、評価をBとした。	継続	ごみ減量や資源化に関する啓発を図るため、ホームページ等を活用して見学者の増加を図る。 また、見学受け入れ中止の場合の代替案として、工場見学の様子を撮影したDVDの貸し出しを行う。
3	7	10	北部清掃工場見学	資源循環課	市民に清掃工場を見学してもらい、ごみ減量の啓発を図っている。	60団体 1,940名(内、行政視察1回 2名)	91団体 2,152名	A	・コロナ禍の影響で見学受け入れ中止や人数制限の対応を行った影響もあったが、目標を達成できた。 上記を理由として、評価をAとした。	継続	ごみ減量や資源化に関する啓発を図るため、ホームページ等を活用して見学者の増加を図る。 また、見学受け入れ中止の場合の代替案として、工場見学の様子を撮影したDVDの貸し出しを行う。
3	7	11	公園緑地整備事業	公園緑地課	自然環境を守り、緑の創造を行ない、世代を越えて自由にコミュニケーションができる場、憩いの場、健康づくりの場として、貴重な樹木の保全と、都市公園の積極的な整備をし、緑豊かな都市景観の創出を図る事業。	・新規開設(10公園、2緑地) ・拡張等の変更開設(1公園) ・市民一人あたり公園面積3.37㎡	・新規開設(7公園、4緑地) ・市民一人あたり公園面積3.39㎡	A	着実に公園緑地の整備が行われているため、評価をAとした。	継続	今後も公園緑地の整備に努める。
3	7	12	下水道の日	下水道総務課	下水道についてのパネル等の展示、下水道クイズやバス見学会など、子供から大人まで楽しみながら下水道に対する理解を深めてもらえるよう取り組んでいる。また、市内小学生を対象とした絵画・書道コンクールを行い、下水道の啓発を図っている。	船橋市下水道展来場者 来場者数は計測せず。 絵画・書道コンクール 中止 下水処理施設バス見学会 中止	船橋市下水道展来場者 来場者数は計測せず。 絵画・書道コンクール 中止 下水処理施設バス見学会 中止	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2年連続で絵画・書道コンクール及びバス見学会の開催を中止した。 下水道展は、密を避けるためにパネル展示のみの開催としたため、来場者数の計測は行わなかった。 令和2年度に初めて実施したイオンモール船橋でのパネル展示は、令和3年度も実施した。 コロナ禍で可能な限りの活動を行ったが、予定の事業が実施できなかったため評価はBとした。	継続	下水道の啓発のため、下水道の日事業は今後も継続していきたいと考えている。令和4年度は初めての試みとして、イオンモール津田沼でのパネル展示開催も検討している。
3	7	13	初心者のためのパソコン講習会(再掲)	社会教育課	パソコン初心者を対象とした講習会を民間事業者に委託し実施した。	受講者45人、年間2コース開催 平日(一日・2日間)コース	受講者116人、年間7コース開催 平日(一日・2日間)コース	A	年間7コースの実施ができ、受講者アンケートの結果「満足」「やや満足」と回答された方が9割を超える満足度であったことから、A評価とした。	継続	引き続き満足度の高い講習を実施していく。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
3	7	14	基幹館制度の充実	公民館	基幹館は市内5地区からなる地区公民館の事業について連絡調整し、事業の支援及び助言を行う。	コロナ禍における中、社会教育課及び各公民館との連絡調整を積極的に行い、情報共有及び課題解決に向けた対応ができた。	各基幹公民館は地区公民館への助言や支援を実施した。	A	各地区館からの新型コロナウイルス感染症対策に係る利用者対応などの相談に対し、的確にアドバイスするなど支援及び助言を行った。	継続	地区公民館から館長の出勤していない日などに基幹館への問い合わせ等があるため、対応できる体制を今後も継続していく。
3	7	15	文化財保護事業	文化課	市内にある指定及び登録文化財の保護並びに普及を図るため、文化財説明板設置、文化財展示、関係図書刊行、ホームページ作成・更新等を行う。	・文化財緊急修繕等補助事業 下記の2件を補助。 「梯子乗りと木遣り歌」梯子等用具購入、「二宮神社社殿」の屋根修繕。 ・文化財説明板設置事業 下記の2基を建て替え 「二宮神社社殿」「齋藤その女等奉納句額」説明板にQRコードを添付し、HPから韓国語、中国語(簡体字)の解説文を読むことが可能とした。	・文化財緊急修繕等補助事業 下記の3件を補助。 「梯子乗りと木遣り歌」に関して市民まつりや出初式等で使用する梯子の購入、「高根町神明社の神楽」で使用する経年劣化等で傷んだ鼓の修繕、「東葉高等学校正門」の瓦の葺き替え修繕。 ・文化財説明板設置事業 下記の2基 「行田無線塔跡」の説明板の新規設置、「船橋御殿跡」の説明板の建替えを実施。説明板には、英語を併記し、HPから中国語(簡体字)の解説文がみられるようにした。	B	・市指定文化財に対する修繕等補助事業を実施したことで、伝承者の意欲が高まった。その影響で、文化財の保護や継承を目的とした文化財の維持管理が図られたり、伝承者の活動の場が広がったりすることに結びついた。 ・市内の文化財をPRする説明板を新たに設置したり、老朽化した文化財説明板の建替え等を行ったりしたことで、市民の文化財への関心や理解を深めることに繋がった。 ・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、文化財防火デーに伴う消防訓練等の啓発事業の中止が多くなったことから、評価をBとした。	継続	今後も文化財修繕等の補助や文化財説明板設置、文化財展示、関係図書刊行、ホームページ作成・更新等を実施して、市内にある指定及び登録文化財の保護並びに普及を図っていく。
3	7	16	文化財及び埋蔵文化財の調査	文化課	市内にある文化財の調査・研究・保護・活用を図るとともに、市民への普及を図る。 土木工事事業等によって失われていく埋蔵文化財について、文化財保護と開発事業との円滑化を図り、工事の事前に適正な発掘調査の実施と遺跡・遺物の調査・研究・公開に努める。	・埋蔵文化財にかかる窓口・Fax等による問合せは4,957件。 ・埋蔵文化財にかかる開発や市事業等の文書照会・回答663件、試掘調査39件、工事立会71件を実施した。発掘調査は確認調査29件・本調査11件を実施し、また発掘調査報告書7冊を刊行した。 ・指定・未指定有形文化財3件の調査を実施。	・埋蔵文化財にかかる窓口・Fax等による問合せは5618件。 ・埋蔵文化財にかかる開発や市事業等の文書照会・回答765件、試掘調査41件、工事立会113件を実施した。発掘調査は確認調査28件・本調査15件を実施し、また発掘調査報告書9冊を刊行した。 ・指定・未指定有形文化財5件の調査を実施。	A	・埋蔵文化財の調査については、今年度も工事の前に埋蔵文化財の保存について事業者と協議を行い、やむを得ず現状保存ができない場合は、工事で破壊される前に発掘調査(記録保存)を実施して文化財を保護した。また、整理・分析作業を実施して発掘調査報告書を9冊刊行し、調査の成果を公表した。 ・年間を通じて、5件の指定・未指定の文化財の調査等を行うことが出来た。 上記を理由として、評価をAとした。	継続	文化財審議会委員や各分野の研究者の協力を得て、指定・未指定の文化財の調査を継続して行っていく。また、郷土資料館との連携を促進していく。 埋蔵文化財について、今後も事業者と協議を行い、やむを得ず現状保存ができない場合は、記録保存による保護を進めていく。
3	7	17	市民文化ホール ・市民文化創造館事業	市民文化ホール	・市民自らの文化芸術活動を実践できる場の提供(管理・運営事業) ・優れた文化芸術を享受できる機会の提供(自主企画事業) ・文化ホール育成団体である船橋ジュニアオーケストラ、船橋さざんか少年少女合唱団の活動支援。 ・市民文化創造館では、青少年向けのワークショップ等の実施。	・市民文化ホール 令和2年度 利用団体 119団体 利用者 18,656人 自主事業 15(うち中止14) 船橋ジュニアオーケストラ演奏会(中止) 船橋さざんか少年少女合唱団演奏会(中止) 「ホールの舞台上で演奏etc.しませんか♪～空館芸術～」を実施、7月3日から8月26日までのうち、11日間で利用者142名(ピアノのみ、ピアノとヴァイオリン、ピアノとギター、ジャズダンス、演劇)が参加。 ・市民文化創造館 令和2年度 利用団体 90団体 利用者 4,587人 自主事業 19(うち中止15) 参加 416人 「きららのピアノを弾いてみよう!」を実施。 7月16日から8月1日まで5日間で86名が参加。	・市民文化ホール 令和3年度 利用団体 237団体 利用者 58,045人 自主事業 15事業(うちシネマクラブのほか3事業中止) 参加 4,563人 ・市民文化創造館 令和3年度 利用団体 251団体 利用者 17,608人 自主事業 20事業(うち中止2、無観客で開催1(1,092回視聴)) 参加 2,096人	A	徹底した感染対策を実施し、来館者の協力を得て施設の貸出及び自主事業を開催できた。 また、感染拡大防止のため、ちょっとよりみちライブ200回記念は無観客で開催したものの、生涯学習チャンネルで配信することで、より多くのお客様へライブを提供することができた。	継続	令和4年度は、自主事業のテーマを「船橋のアートでハートをつなぐ! ~地元アーティストの活躍で市民に元氣と喜びを~」として、地元アーティストに出演いただく機会を増やしている。 令和5年度以降については、アート(美術)とのコラボレーションを積極的に企画するなど、引き続き地元アーティストの活動拠点として自主事業及び貸館の充実を図るとともに、他の生涯学習施設との連携も視野に入れて新たな事業を展開していく。
3	7	18	郷土資料館 ・飛ノ台史跡公園博物館事業	郷土資料館	郷土資料館は船橋市の通史を中心に、飛ノ台史跡公園博物館は縄文時代(考古)を中心にそれぞれ資料の収集・調査・研究を行うとともに展示事業・教育普及事業を通して、市民に郷土の歴史に関する学習の場を提供する。	郷土資料館 <展示事業> ・常設展示(10,606人)・屋外展示(2,649人) ・企画展示3回(8,139人)・出張展示3回・ミニ展示2回 <教育普及活動> ワークショップ活動0回(0人)、講座・講演会等3回(77人)、バス見学会0回(0人)、教育課程に基づく博物館見学2回(160人)、職業体験0日(0人)、移動博物館3回 飛ノ台史跡公園博物館 <展示事業> ・常設展示(9,567人) ・企画展示2回(932人) <教育普及活動> ワークショップ活動50回(449人)、講座・講演会等2回(788人)、バス見学会0回(0人)、教育課程に基づく博物館見学7回(693人)、職業体験0日(0人)、海神中学校、高根台中学校との連携事業5回(388人)、移動博物館1回(127人)	郷土資料館 <展示事業> ・常設展示(20,956人)・屋外展示(5,704人) ・企画展示4回(12,032人)・出張展示2回・ミニ展示6回 <教育普及活動> ワークショップ活動0回(0人)、講座・講演会等21回(254人)、バス見学会0回(0人)、教育課程に基づく博物館見学5回(427人)、職業体験0日(0人)、移動博物館3回 飛ノ台史跡公園博物館 <展示事業> ・常設展示(22,294人) ・企画展示4回(6,161人) <教育普及活動> ワークショップ活動262回(3,046人)、講座・講演会等2回(631人)、教育課程に基づく博物館見学10回(1,155人)、職業体験0日(0人)、海神中学校、高根台中学校との連携事業6回(599人)、移動博物館3回(334人)、夏休み自由研究支援事業25回(444人)	A	両博物館の企画展・教育普及事業のアンケート結果について概ね好評の評価を受け、利用者数も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館(令和2年.8/31~9/30)が約1ヶ月ほどあったが、目標値の81.90%(利用者数49,143人/目標数60,000人)とを達成したことから、評価をAとした。	継続	両博物館のそれぞれの特性を生かした企画展や教育普及活動はもとより、「ふるさと船橋」を誇りに思い、大切にする気持ちを育むための事業を行っていく。コロナ禍で市民の生活様式にも変化があることから、引き続き、ふなばし生涯学習チャンネルでの動画配信等を実施し、今後も来館せずとも学べる機会を提供していく。
3	7	19	青少年キャンプ場管理運営	青少年課	キャンプ場及び研修棟の管理及び貸出し	・キャンプ場利用者数: 2,973人(310団体) ・研修棟利用者数: 利用停止中	・キャンプ場利用者数: 5,715人(431団体) ・研修棟利用者数: 利用停止中	B	昨年に比べ利用者数は増加したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため施設を閉鎖した期間があり、例年に比べ利用者数・利用者数ともに低い水準であるため、評価をBとした。	継続	指定管理者制度等の民間活力の活用に向けて検討していく。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
3	7	20	青少年会館運営	青少年課	施設の貸出しを行っている他、小・中学生向けの事業もしている。	利用者数 20,952人(1,384団体) 主催事業数 0事業	利用者数 29,976人(2,551団体) 主催事業数 5事業、参加者数119人(延べ154人)	B	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、施設の臨時休館や夜間の利用中止等があり、令和3年度も利用団体数・利用者数ともに減少した。主催事業については、計画していたものすべては実施できなかったが、感染対策を取りながら、5つの事業を実施することができた。	継続	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に取り組みながら運営していく。また、主催事業については、感染の状況に留意し、計画・実施していく。
3	7	21	一宮少年自然の家管理運営	青少年課	施設の貸出し及び事業の実施	利用者数 1,665人(20団体)	利用者数 10,296人(81団体) 事業回数 5回	B	新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として利用制限や一時的な休所期間もあり、例年と比較すると利用人数は減少であったが、昨年度の実績と比較すると、校外学習の実施を始め一般団体の受け入れもできたことから、利用人数も徐々にだが回復傾向にある。また家族利用の受け入れを開始する他、主催事業の実施や提供プログラムを増やし、施設での活動の幅を広げたことでサービスの充実を図ったため、評価をBとした。	拡大	新型コロナウイルス感染症により見通しのたない部分はあるが、今後も主催事業や提供プログラムを増やし、利用者の拡充及びサービスの向上に努めていく。
3	7	22	まちかどスポーツ広場の設置	生涯スポーツ課	市民のスポーツの場として、まちかどスポーツ広場を設置している。	北部清掃工場の跡地について、広場として活用できるよう、担当部署である資源循環課と協議等を行い、供用にに向けての準備を行った。 また、メディカルタウン構想の一環として、海老川上流地区に新規のまちかどスポーツ広場を設置できるかどうか担当部署と協議を行った。	令和3年4月から大神保町まちかどスポーツ広場が供用を開始した。1年を通して、特に土日祝日においては少年野球団体をはじめとした多くの市民の方に利用いただけるようになった。 また、令和3年11月1日付の要綱改正によりまちかどスポーツ広場の区分整理を行ったため、従来運動広場であった一部の施設をまちかどスポーツ広場として位置付けた。	B	大神保町まちかどスポーツ広場は、多くの方にご利用いただける施設となったものの、平日の利用者は少ない。 また、まちかどスポーツ広場の区分整理においては、広場の看板や各種広報紙の変更対応ができていないものもあったため、評価をBとした。	継続	大神保町まちかどスポーツ広場については、今後利用者の増加に合わせて予約方法を検討していく。 また、メディカルタウン構想の一環として、海老川上流地区に新規のまちかどスポーツ広場を設置できるかどうかについては、引き続き関係部署と協議を進めていく。
3	7	23	海老ヶ作貝塚再整理・研究事業	文化課 埋蔵文化財調査事務所	平成26年度に起きた海老ヶ作貝塚第4次地点の損壊事件を契機として、過去に実施した海老ヶ作貝塚(2)地点調査の再整理・分析事業を実施するとともに、これまで調査した第1次～4次地点と併せて研究・評価し、総合的な発掘調査報告書を行う。またこの成果に基づき、令和8年度までに、遺跡が現状保存されている第3次地点を市指定史跡とすることを旨とする。	出土土器の拓本作業を実施した。 取掛西貝塚の総括報告書刊行に注力するため、一部の作業については次年度以降に延期した。	遺物については引き続き、出土土器の拓本作業、骨角・貝製品の確認・実測作業を実施した。また、遺構については、図面の修正・挿図作成、写真図版の作成を実施した。	A	ほぼ予定通りに事業を進めることができたことから評価をAとした。	継続	今後も計画に基づいて整理作業を実施する予定。
3	7	24	埋蔵文化財普及啓発事業	文化課	平成26年度、海老ヶ作貝塚が土木工事により損壊される事件を受けて、開発行為等に先行する姿勢で埋蔵文化財保護・普及事業を実施する。①遺跡マップ作成及び②埋蔵文化財説明板設置事業は国の「重要文化財等保存・活用事業(地域の特色ある埋蔵文化財活用事業)」補助金を受けて行なう。③Web-GIS埋蔵文化財包蔵地図のホームページ配信は、すでに庁内で稼働しているシステムを応用して庁外配信する。なお①②は今後も継続事業とする。	国庫補助を得て、普及用遺跡マップ10,000部を刊行し、市内の小学校(6年生全員)に重点的に配布した。併せて、市内の公園等5か所に遺跡説明板を設置した。また、取掛西貝塚を紹介する児童向けパンフレット15,000部とリーフレット第2版20,000部を刊行し、普及に努めた。	新型コロナウイルス感染症の影響により、遺跡マップ・取掛西貝塚パンフレットの作成はできなかったが、学校へのマップ・パンフレットデジタル版の配布や取掛西貝塚の動画を配信した。	B	国の補助金による遺跡マップ作成を取りやめたため、普及啓発事業としては限定的となり、効果も限定的であったことから評価をBとした。	継続	遺跡マップや取掛西貝塚パンフレットのデジタル版と印刷物を効果的に併用して市民への周知を推進するとともに、学校と連携して普及を進めていく。
3	7	25	重点保護遺跡事業	文化課	平成26年度、海老ヶ作貝塚が土木工事により損壊される事件を受けて、開発行為等に先駆けて主要遺跡を政策的に保護する。 1約1万年前の縄文時代貝塚である取掛西貝塚の保護事業を実施する。 2現在、市指定である飛ノ台貝塚の県指定史跡を目指して、準備作業を行う。 3下野牧二和野馬土手について市指定史跡化をはかり、保護のため必要な維持管理を行う。	1取掛西貝塚については国史跡指定の具申を行い、取掛西貝塚総括報告書を刊行した。 3「下野牧二和野馬土手」の草刈・樹木の剪定を行い、維持管理を引き続き行った。	1取掛西貝塚については8月に講演会を実施し、3月には史跡取掛西貝塚保存活用計画策定委員会を設置した。また、すでに取得した史跡用地の草刈を行い、維持管理を引き続き行った。 3「下野牧二和野馬土手」の草刈・樹木の剪定を行い、維持管理を引き続き行った。	A	1講演会を実施して市民に取掛西貝塚を周知する一方、史跡取掛西貝塚保存活用計画策定に着手した。また、史跡用地の保護に必要な維持管理を行うことができた。 3「下野牧二和野馬土手」の保護に必要な維持管理を行うことができた。 上記の理由により、評価をAとした。	継続	1今後も講演会の実施等を通して市民に周知し、史跡取掛西貝塚保存活用計画の策定を進めていく。また、史跡用地を継続して保護する。 3下野牧二和野馬土手を継続して保護する。
4	1	1	子育てサロン事業補助事業 ・ミニデイサービス補助事業 (再掲)	地域福祉課	地区社会福祉協議会が実施する子育てサロン、ミニデイサービス事業に、船橋市社会福祉協議会を通じて運営費の一部を補助する。 《子育てサロン》 地域で孤立しがちな子育て中の親を対象に、育児相談や仲間づくりを支援する。ボランティアとの世代間交流も図られる。 《ミニデイサービス》 閉じこもりがちな虚弱高齢者を対象とし、昼食をはさんでゲームや体操をすることで、地域の人たちとの交流・介護予防を図る。小中学生を招いた交流プログラムを導入している地区も増えている。	子育てサロン事業実施回数62回 ※内訳 集まってる開催12回、郵送による実施50回 ミニデイサービス事業実施回数224回 ※内訳 集まってる開催26回、郵送による実施198回	子育てサロン事業実施回数 201回 ※内訳 集まってる開催135回、郵送による実施 66回 ミニデイサービス事業実施回数 287回 ※内訳 集まってる開催 48回、郵送による実施239回	B	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、集まってるの通常開催が困難であり、実施回数が例年に比べ大幅に減少した。しかしながら、実施できない期間についてはワークキットや乳幼児向けの塗り絵、感染対策に関するチラシの送付などを行い、利用者が孤立しないよう努めたため、評価をBとした	継続	令和4年度においても通常開催が困難となるものが想定されるが、開催までの間については、引き続き郵送等による活動を継続する。
4	1	2	生涯学習コーディネーターとの連携	公民館	ふなばし市民大学の生涯学習サポート学科(当初の生涯学習コーディネーター養成講座、学びのコーディネーター学科など名称変更)の卒業生有志で組織する船橋市生涯学習コーディネーター連絡協議会と協力、連携する事業を各公民館等で行う。	新型コロナウイルスの影響により実施なし	学級講座 21事業 延参加者数 2,655人 集会活動 20事業 延参加者数 644人	B	今年度は、コロナによる休館も少なく、各館で生涯学習コーディネーターと連携した事業が実施できた。	継続	市民や地域と協働する事業等については、コーディネーターとも連携し、今後も事業を実施していく。
4	1	3	学校支援地域本部事業(再掲)	社会教育課	地域の人々がボランティアとして、小・中学校の環境整備や学校行事等、様々な支援を行い、地域全体で学校を支援していく体制づくりを、中学校区ごとに推進する。	学校支援地域本部設置中学校区数:17 (実施中学校:17校) (実施小学校:34校)	学校支援地域本部設置中学校区数:20 (実施中学校:20校) (実施小学校:43校)	A	全中学校区での本部設置を目指しており、令和3年度は新規開設の2中学校区を含めた20中学校区に設置した。登下校安全指導や環境整備活動など地域で学校を支援する体制ができているため、評価をAとした。	継続	市内の全中学校区が参加することを目指し、今後も学校との連携を進めていく。

方策	施策	事業	事業名	担当課名	事業概要	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度事業評価		今後の方向性	
								評価区分	評価	方向性区分	今後の具体的な取り組み
4	1	4	市民の力活用事業	公民館	少子高齢化社会の中で、現代社会の持つ諸課題や地域の抱える諸課題について、市民の持つ知識や経験を活用し、市民に課題解決のための講座や集会活動を提案してもらい、公民館とともに地域力の活性化と地域活動団体の育成を図る。	新型コロナウイルスの影響により実施なし	実施館 4館 実施件数 4件	B	令和3年度においては、提案いただいた中で4件実施した。しかしながら、提案の段階で運営審議会への諮問が出来ないような提案もあったことから評価をBとした	継続	提案があっても実施に至らないケースもあったことから、受付（相談）の段階で地域の活性化に繋がるものか判断し、趣旨に沿うように丁寧な説明により、実施に繋げる。
4	2	1	船橋三番瀬漁業のPR	農水産課	市民の漁業に対する理解を深めるため、水産体験イベントの開催などにより歴史ある船橋三番瀬漁業をPRし市民との交流を促進する。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施なし。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施なし。	C	イベントの実施はなかったが、今後のPR方法について検討したので、評価をCとする。	継続	令和2年度、令和3年度はイベントの実施が出来なかったが、漁業体験・PRイベントの開催などを通じて歴史ある船橋三番瀬漁業をPRしていきたい。
4	2	2	地産地消及び食育の推進	農水産課	地場産の農水産物をPRするため農水産祭や地場野菜即売会などを行う。また、学童農園などにより児童・生徒が直に農作物の栽培を体験し、農業や食の大切さを学ぶ。	○農水産物のPR活動 ・9月13日船橋のなしPR(マリスタジアム) ・11月1日～16日船橋産農水産物PRキャンペーン(主体:船橋市農水産祭実行委員会) ○学童農園(市内3校の小中学校において実施) ※新型コロナウイルス感染拡大のため、希望のあった小中学校5校中2校急遽中止。 ○学校給食 市内小学校16校の給食に「船橋のなし」を提供。 市内小学校20校の給食に「小松菜」を提供	○農水産物のPR活動 ・人参、梨でプレスイベントを開催。 ・8月27日船橋市なし味自慢コンテスト開催。 ・9月1日船橋のなしPR(マリスタジアム)。 ・11月4日船橋市農水産祭にて地場野菜等即売会実施。(主体:船橋市農水産祭実行委員会) ○学童農園(市内5校の小中学校において実施) ○学校給食 市内小学校17校の給食に「船橋のなし」を提供。 市内小学校18校の給食に「小松菜」を提供	A	令和3年度は新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、実績のとおりPR活動をおこなうことができ、イベント内で市内の方からお喜びの言葉をいただきました。 また、昨年度に引き続き児童へ食育の推進や地元農産物のおいしさを知るきっかけをつくるため、「船橋のなし」と「小松菜」を市内小学校へ提供することができ、一部小学校からお礼のお手紙を頂戴し、地元船橋への愛着が芽生えていることを実感した。	継続	学童農園事業は令和4年度より4校に減少しており、教育委員会指導課・農委委員会等関係課と今後の方針について協議が必要。当課としては今度、次世代の食育推進事業は学校給食事業を更に活性化させていきたいと考えている。 また、農産物PR活動については、令和3年度からコロナ禍に対応したイベントを実施することができたので、ブラッシュアップしながら、より効果的なPRを実施していきたい。
4	2	3	ふなばし市民大学校「ふなばしマイスター学科」	社会教育課	船橋の歴史・文化・産業等についての学習や研究を通して、「ふなばしの魅力」を再発見し、その魅力を紹介(案内)できる人の育成を目的に学習する。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、1年間休校となったため実績なし。	定員30人、修了者22人、授業回数29回 地元「ふなばし」の魅力再発見のための学び(歴史・文化・産業等)、個人での自主研究やまとめづくりなどを実施した。	A	「学ぶ」ことにより「ふなばし」への理解が深まり、「ふなばしの魅力」の再発見につながった。	継続	まちづくり学部の中では最も応募者の多い学科であり、市民のニーズの高さが感じられる。学生の要望に応えられるよう、引き続き授業を実施していく。
4	3	1	市民活動サポートセンター事業	市民協働課	市民活動サポートセンターにおいて、市民活動に関する情報提供や市民活動フェア等を行っている。	・市民活動サポートセンターでの市民活動やボランティアに関する情報提供を行ったものの、感染症の感染拡大に伴う臨時休館の影響により、対前年比で同センター利用者数は減少した。 ・「ふなばし市民活動フェア」及び「学びあい交流会」は感染症の感染拡大防止の目的で実施しなかった。	・「ボランティア・市民活動入門ガイド」を発行し、興味のある人がインターネット上の関連情報にアクセスしやすいよう、リーフレット形式でまとめて公共機関などで配布した。 ・市民活動やボランティアなどの社会貢献活動に参画するきっかけの場を提供するためのイベント「第13回ふなばし市民活動フェア～ネットてつなく市民の輪～」を開催した。 ※動画やオンライン会議ツールを活用し、「Web重視型」で開催 開催日 令和3年12月1日～12日 参加団体 45団体 ・市民活動団体やボランティア活動団体共通のテーマを設定した講座を実施した。 【開催テーマ】 ・Zoomの使い方講座 ・会員確保プロジェクト 開催延日数 3日 参加延人数 50人	A	チラシ、ポスター、リーフレット等の紙媒体による情報提供やインターネットを活用しての情報提供を行った。特に「ボランティア・市民活動入門ガイド」を新たに発行し、インターネット上の関連ページを体系化し、アクセスしやすくなった。 また「ふなばし市民活動フェア」では動画やオンライン会議ツールを積極活用することで団体活動を知る機会の充実を図るなど社会状況に応じた情報提供を実現できたことから、評価をAとした。	継続	センターの利用者数が増加し、センターが効果的な情報提供の場となるような取り組みを進めるとともに、ふなばし市民活動フェアや講座を通じた市民活動に関する学習機会の提供に努めていく。
4	4	1	ふなばし市民大学校「生涯学習コーディネーター養成学科」	社会教育課	生涯学習のサポートを行う生涯学習コーディネーターの育成を目的に学習する。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、1年間休校となったため実績なし。	カリキュラムの見直しに伴い「生涯学習コーディネーター養成学科」に変更した。 定員30人、修了者30人、授業回数35回 市民の生涯学習のサポートを行う生涯学習コーディネーターを養成する授業を行った。	A	入学者全員が修了することができ、多くの学生が市民の生涯学習を支援できる人材となることができた。	継続	学生の地域での活動につなげられるよう、引き続き授業を実施していく。
4	5	1	生涯学習サポート事業	社会教育課	自主的に「何かを学びたい、体験したい」と思っている人と、自分の技能や知識をボランティアとして生かしたいと思っている人を結びつけ、市民の学びあいをお手伝いし、学びの幅を広げることを目的とした事業。	登録者数 54人 実施件数 1件 延参加者数 14人	登録者数 53人 実施件数 1件 延参加者数 5人	B	講師の新規登録が3件あったものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施件数が伸びなかったことから、B評価とした。	継続	より多くの市民の方に事業を知っていただけよう冊子の配布に加え、周知方法を再検討する。
4	6	1	まちづくり出前講座	社会教育課 担当課	市民が主催する学習会や集いに市の職員等が講師として出向き、市の事業や施策などについて説明する。	メニュー数 106事業 実施件数 14件 参加者数 668人	メニュー数 106事業 実施件数 70件 参加者数 3,898人	A	コロナ禍であったが、感染症対策を万全にしたうえで実施することができ、前年度と比べて実施件数が大幅に増えたため、A評価とした。	継続	今後も市民にとって役立つ講座を提供していく。

5. 施策別事業一覧

方策	施策	施策名	事業名	課名
1	1	健康を保持するための学習機会の提供		
		1	ふなばし健康まつり	健康政策課
		2	ふなばし健やかプラン21講演会	健康政策課
		3	食育イベント	地域保健課
		4	ふなばし健康ダイヤル24	健康政策課
		5	健康教育事業(成人)	地域保健課
		6	公開講座	地域保健課
		7	食の安全の確保	保健体育課
		8	学校保健教育の推進	保健体育課
		9	総合型地域スポーツクラブ	生涯スポーツ課
		10	ふなばしシルバーリハビリ体操推進事業	健康づくり課
	2	自然との共生を育むための学習機会の提供		
		1	ふなばし環境フェア	環境政策課
		2	夏休みセミのぬげから調査	環境政策課
		3	ふなばし三番瀬クリーンアップ	環境政策課
		4	こどもエコクラブ(公益財団法人日本環境協会事業)	環境政策課
		5	森林ボランティア団体による里山の樹林保全活動の促進	農水産課
		6	自然散策会	環境政策課
	7	市民参加型モニタリング調査	環境政策課	
	3	国際人を養成するための学習機会の提供		
		1	国際理解セミナー	国際交流課
		2	外国人ボランティア講師派遣事業	国際交流課
		3	日本語ひろば	国際交流課
	4	国際人を養成するための学習機会の提供		
		4	帰国・外国人児童生徒への支援の充実	指導課
4	情報化社会への対応力を高めるための学習機会の提供			
	1	初心者のためのパソコン講習会	社会教育課	
2	家庭教育セミナー		社会教育課・公民館	
	2	家庭教育セミナー	社会教育課・公民館	
5	家庭の教育力を高めるための学習機会の提供			
	1	健康教育事業(母子)	地域保健課	
	2	ブックスタート事業	地域保健課・図書館	
	3	母性教室	地域保健課	
	4	就学時健診等における子育て学習	社会教育課・公民館	
5	家庭教育セミナー(再掲)	社会教育課・公民館		
6	現代的課題に対応した消費者の学習機会の提供			
	1	船橋市生き生き展	消費生活センター	
	2	消費者講座	消費生活センター	
	3	消費者月間記念事業	消費生活センター	
4	消費者団体育成事業	消費生活センター		
7	人材育成と仲間づくりを目指す総合的な学習機会の充実			
1	ふなばし市民大学校運営	社会教育課		
8	ライフステージに応じた学習機会の提供			
	1	子育て情報誌発行	地域子育て支援課	
	2	子育て支援センターの運営	地域子育て支援課	
	3	保育園での地域交流事業	公立保育園管理課	
	4	保育園での食生活改善・食育の推進	公立保育園管理課	
	5	乳幼児対象の児童ホーム事業	地域子育て支援課	
	6	プラネタリウムの投映	総合教育センター	
	7	ふなばし生涯学習フェア	社会教育課	
	8	家庭教育セミナー(再掲)	社会教育課・公民館	
	9	高齢者学級	社会教育課・公民館	
	10	子育てサロン	公民館	
	11	乳幼児対象の公民館事業	公民館	
	12	青少年を対象とした公民館事業	公民館	
	13	成人を対象とした公民館事業	公民館	
	14	高齢者を対象とした公民館事業	公民館	
	15	ふなばしハッピーサタデー事業	青少年課・公民館	
	16	津別町青少年交流事業	青少年課	
	17	乳幼児対象の図書館事業	図書館	
	18	児童・生徒を対象とした図書館事業	図書館	
	19	青年を対象とした図書館事業	図書館	
	20	成人を対象とした図書館事業	図書館	
	21	高齢者を対象とした図書館事業	図書館	
	22	セカンドブック事業	図書館	
	23	日本語教室	国際交流課	
	24	いきいき同窓会交流事業補助金	高齢者福祉課	
25	ふなばし夏のボランティア体験事業	市民協働課		

方策	施策	施策名	事業名	課名
1	9	世代間交流の推進		
		1	星を見る会、特別放映、出張星空教室	総合教育センター
		2	科学の広場	総合教育センター
		3	世代間交流を目的とした公民館事業	公民館
		4	音楽フェスティバル・千人の音楽祭	文化課
		5	少年少女交歓大会	青少年課
		6	青少年キャンプ事業	青少年課
	7	津別町青少年交流事業(再掲)	青少年課	
	10	スポーツ・レクリエーションの充実		
		1	船橋市民マラソン大会	生涯スポーツ課
		2	成人の日記念船橋市民駅伝競走大会	生涯スポーツ課
		3	船橋市小学生・女子駅伝競走大会	生涯スポーツ課
		4	総合型地域スポーツクラブ(再掲)	生涯スポーツ課
	5	ゲートボール場管理運営費	高齢者福祉課	
	11	芸術文化活動の推進		
		1	21世紀のデジタルプロジェクトの充実	郷土資料館
		2	各種芸術文化事業の主催および、共催・後援	文化課
		3	まちかど音楽ステージ	文化課
	4	ふなばしミュージックストリート(ふなばし音楽フェスティバル)	文化課	
	12	ノーマライゼーションの実現に向けての学習機会の充実		
		1	ノーマライゼーションを理解することを目的とした公民館事業	公民館
		2	日本語教室(再掲)	国際交流課
	3	地域福祉活動助成交付金事業	地域福祉課	
	13	人権意識を高めるための学習機会の充実		
		1	研修会・講座開催	市民協働課
		2	人権の花運動	地域福祉課
		3	人権意識を高めることを目的とした公民館事業	公民館
	4	地域人権啓発活動活性化事業	地域福祉課	
14	男女共同参画社会に向けての学習機会の提供			
	1	男女共同参画講演会	市民協働課	
	2	情報誌 f の発行	市民協働課	
	3	講座開催	市民協働課	
	4	男女共同参画写真・標語コンクール	市民協働課	
	5	男女共同参画フェスティバル	市民協働課	
6	男女共同参画社会の実現を目的とした公民館事業	公民館		
2	1	家庭や地域における学校外活動の充実		
		1	星を見る会、特別放映、出張星空教室(再掲)	総合教育センター
	2	科学の広場(再掲)	総合教育センター	
	2	地域との連携による家庭教育の充実		
		1	家庭教育セミナー(再掲)	社会教育課・公民館
	2	就学時健診等における子育て学習(再掲)	社会教育課・公民館	
	3	学校を地域全体で支援していく体制の推進		
		1	学習サポーター派遣事業	指導課
		2	スクールガード制度	保健体育課 児童・生徒防犯安全対策室
		3	学校支援地域本部事業	社会教育課
	4	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方研究協力者会議	総合教育センター	
	4	地域や異年齢集団とかかわる機会の充実		
		1	子育てサロン事業補助事業・ミニデイサービス補助事業	地域福祉課
	2	ふなばしハッピーサタデー事業(再掲)	青少年課・公民館	
	5	地域における学校施設のあり方		
		1	総合防災訓練	危機管理課
		2	小・中学校等備蓄整備事業	危機管理課
		3	中学生向け防災学習	危機管理課
		4	放課後ルーム事業	地域子育て支援課
		5	AEDの維持管理	健康政策課
		6	学校施設開放事業	生涯スポーツ課
	7	総合型地域スポーツクラブ(再掲)	生涯スポーツ課	
	6	学校をめぐる現代的課題に向けての取り組み		
		1	スクールロイヤー活用事業(スクールロイヤーによる予防教育)	指導課
	7	大学や高等学校との連携協力		
		1	大学公開講座	社会教育課
		2	後援・共催・協賛事業	社会教育課
	3	東部地区5館合同事業(東部、三田、薬円台、習志野台、飯山満)	公民館	
3	1	学習情報の一元化と情報のネットワーク化		
		1	「楽しく学ぼうふなばし」の発行	社会教育課
		2	生涯学習施設予約管理システムの運用	社会教育課
		3	図書館システム運営事業	図書館
	4	公民館図書室のオンライン化	社会教育課・図書館・公民館	
	2	多様な情報メディアの活用		
		1	市広報への記事の掲載	広報課
		2	市広報、館報、チラシ及びホームページ等による情報提供	公民館
		3	貴重資料のデジタル化及び公開事業	図書館
	4	ふなばし生涯学習チャンネル	社会教育課	

方策	施策	施策名	事業名	課名	
3	3	ライフステージに応じた情報提供			
		1	ホームページ運用	広報課	
		2	子育て情報誌発行(再掲)	地域子育て支援課	
	4	学習相談体制の整備・充実			図書館
		1	学習相談体制の整備・充実	公民館	
		2	学習相談体制の整備・充実	図書館	
	5	公民館の整備・充実			社会教育課
	6	図書館サービス網の整備・充実			
		1	公民館図書室のオンライン化(再掲)	社会教育課・図書館・公民館	
	3	7	生涯学習関連施設間等の連携・充実		
			1	男女共同参画センターの充実	市民協働課
			2	保健センターの管理運営	保健センター
			3	老人憩の家管理運営	高齢者福祉課
			4	老人福祉センター	高齢者福祉課
			5	児童ホーム事業	地域子育て支援課
			6	クリーン船橋530の日、船橋をきれいにする日の開催	クリーン推進課
			7	リサちゃんたよりの発行	クリーン推進課
			8	西浦資源リサイクル施設	資源循環課
			9	南部清掃工場見学	資源循環課
			10	北部清掃工場見学	資源循環課
			11	公園緑地整備事業	公園緑地課
			12	下水道の日	下水道総務課
			13	初心者のためのパソコン講習会(再掲)	社会教育課
			14	基幹館制度の充実	公民館
			15	文化財保護事業	文化課
16			文化財及び埋蔵文化財の調査	文化課	
17			市民文化ホール・市民文化創造館事業	市民文化ホール	
18			郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館事業	郷土資料館	
19			青少年キャンプ場管理運営	青少年課	
20			青少年会館運営	青少年課	
21			一宮少年自然の家管理運営	青少年課	
22			まちかどスポーツ広場の設置	生涯スポーツ課	
23			海老ヶ作貝塚再整理・研究事業	文化課 埋蔵文化財調査事務所	
24			埋蔵文化財普及啓発事業	文化課	
25	重点保護遺跡選定事業	文化課			
4	1	地域の生涯学習の推進			
		1	子育てサロン事業補助事業・ミニデイサービス補助事業(再掲)	地域福祉課	
		2	生涯学習コーディネーターとの連携	公民館	
		3	学校支援地域本部事業(再掲)	社会教育課	
	2	ふるさと船橋について学ぶ機会の充実			公民館
		1	船橋三番瀬漁業のPR	農水産課	
		2	地産地消及び食育の推進	農水産課	
	3	まちづくりに向けた学習機会の充実			社会教育課
		1	市民活動サポートセンター事業	市民協働課	
	4	人材の養成・活用とネットワーク化			
		1	ふなばし市民大学校「生涯学習コーディネーター養成学科」	社会教育課	
	5	生涯学習人材バンクの充実			
		1	生涯学習サポート事業	社会教育課	
6	生涯学習を支援するための市職員派遣制度の充実				
	1	まちづくり出前講座	社会教育課・担当課		